無產階級戰鬪雜誌

進め!

7月号

コミンテルン第六回世界會議の歴史的成果……プトーリン

全國勞農青年同盟の解消過程……………花村菊夫

定價十錢

日　大衆党分裂批判號

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

本號一瞥

日本大衆黨の分裂……………………卷頭言
全國勞農青年同盟の解消過程
▲『勞農』一派の反階級的正體……………花村菊夫
無産者新聞發行禁止反對……………布施辰治
全産業勞働組合の反動性……………千汲𣳾一郎

‖日本大衆黨分裂批判‖

日本大衆黨崩壞萬歳
▲われわれは如何に戰つたか……………下村靜夫
日本大衆黨の崩壞
▲勞働者農民販賣業者麻生一派は何處へ行く……………吉田源藏
朝鮮社會運動小史(三)…(資料)……………裴成龍
日本社會主義運動思出話(其十一)…(特別讀物)……岡野辰之介
國家的總動員計畫を粉碎せよ……………

コミンテルン第六回世界會議の歷史的成果……………ブハーリン
▲第六回會議の一般的特質と其の仕事(第一章)
▲コミンテルンの綱領(第二章)
A 綱領の形態
B 綱領の國際的性質
C 吾々の綱領はプロレタリアートの世界××のための鬪爭の綱領である
D 帝國主義、社會主義及び植民地××の展望
E 綱領の討論問題
F 全體としてのコミンテルンの綱領
▲國際狀態とコミンテルンの任務(第三章)
A 資本主義安定化の問題
B 狀態の決定的環なる戰爭問題
C 現在の社會民主主義の精神
D 大衆のための鬪爭とプロレタリア系列の統一
E 右翼歪曲に對する鬪爭は黨內的主要線である
▲戰爭に對する鬪爭問題と殖民地問題(第四章)
▲ソビエット、ユニオン××黨內の反對派と國際的トロツキイズム的グループの問題(第五章)

勞働者の室を飾れ

マルクス寫眞集

内容

▲マルクスの生家
▲マルクス夫人
▲マルクスの原稿
▲マルクスの博士免狀
▲マルクスの署名
▲マルクスの旅行免狀
▲ロンドン亡命中のマルクス
▲ロンドンに於けるマルクスの住宅
▲資本論執筆當時のマルクス
▲晩年のマルクス
▲マルクスの墓

定價五十錢

マルクス大寫眞

■縱一尺五寸橫九寸勞働者の家を飾るにふさはしきものだ。

(定價三十錢)

發行所

東京市外大井町坂下二六八〇

進め社本部

振替東京六九八五三番

日本大衆黨の分裂

一

日本大衆黨は創立六ケ月にして、その醜態裏切りを白日の下にさらしつゝ崩壞した。社會民主々義者共が如何に、無産階級の味方らしく裝つてゐようとも、愈々ひくる政府の暴壓に抗して戰ひつゝある勞働者農民の手によつて、必ずその正體を見とゞけられるは自明である。大衆黨の崩壞は、右は愛國主義者平野麻生の田中義一との取引事件から、左は舊無産大衆黨の×××のぶつこはしに至る種々雜多なる形態に於ける裏切者の一系列が、階級的黨員大衆の一せいに排擊するところとなつたからである。

二

しかし乍ら、われ〳〵は、日本大衆黨は崩壞せりと爲して、拱手傍觀してはゐられない。日本大衆黨そのものは崩壞した。だが、分散せる諸分派は、いづれも死物狂ひとなつて、自らの地位を守らうとしてゐる。見ろ、舊日勞黨によつて獨占されたる現大衆黨は平野と共謀して田中内閣に無産階級を賣らんとした麻生を委員長にかつぎ上げ、裏つぼから引つ張り上げた樣な具幹坂本孝三郎は統制委員である、彼等の一味は良き鬪爭の方向へ進みつゝある全國勞農青年同盟に對しての『青年同盟とは血を流しても戰ふ』との暴言から推しても、三一五事件以來一千餘名の鬪士を奪はれた左翼陣營に對して如何に恥ぢ知らずの裏切りを爲しつゝあるかを物語つてゐる、更に舊全日の一連は、四一六事件以來火事泥式進出を策しつゝあつたが、東京地方の×××事件の記事解禁と同時に襲來するやに傳へられてゐる、全國農民組合等の解散を好機として愈々彼等の裏切的陰謀を具體化さんとしつゝある。

三

大衆黨より除名されたる舊無産大衆黨は、かの分裂反對同盟を組織して其の愚かたるかけ引を試みつゝ。一方において舊勞農黨の脫落組水谷長三郎より細田忠夫に至る卑怯者をかり集め×××の組織的批判者たるを公然と得意がり、支配階級のおこぼれにありつかんとしてゐる。

かゝる一連の裏切的勢力の最後の一片までをも粉碎する事こそ、かつての清黨運動勢力の當面する重要なる階級的任務である。

四

今や社會民主主義陣營よりの戰鬪的大衆の進出は目覺ましきものである。組合同盟における階級的反對派の結成、勞青の解消への努力、更に總同盟の内部からも四一六事件の犧牲者が續出してゐる。かくて、社會民主主義系列の弱き一環を形成する日本大衆黨は、崩壞した。

無産階級の×は只一つである。われ〳〵は左右兩翼の社會民主主義との無慈悲なる鬪爭を、工場と農村に押し進めなければならない。日本大衆黨の崩壞は、決して無産階級の損失ではない。戰線統一の拒否ではない。左翼鬪爭に對立する日和見主義的統一政黨が、戰鬪的統一の前進を行はんとする勞農大衆の鐵の如き力によつてはね返されたに過ぎない。全土の同志諸君、社會民主主義との鬪爭は諸君自らのものである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

全國勞農青年同盟の解消過程

勞農一派の反階級的正體

花村菊夫

(一) はしがき

四月二十日東京帝大キリスト教青年會舘に於て開かれた全國勞農青年同盟東京府支部の創立大會以來戰闘的工場勞働青年と左翼社會民主々義者——勞農一派——との對立は極度に尖鋭化するに至つた

而してこの對立は、今や全國的對立に迄發展せんとしてゐる。

從つて、この對立の階級的意義を究明し、勞農一派の反階級的正體を暴露する事は、吾々階級戰に携はる者の當面緊要の任務である。

(二) 日本資本主義の客觀的情勢と無産青年の階級的使命

國內に於ける勞働者農民の窮乏化、支那、××に於ける被抑壓民族の反抗運動の激化、帝國主義諸列强との競爭の激化、ソヴエットロシヤの目ざましき發展等々は高度に發達した日本資本主義の生産力に照應した市場を不足せしめ、國內に於ける階級鬪爭の尖鋭化と相俟つて、日本帝國主義の安定を極めて不確實の安定たらしめてゐる。

この窮境を克服せんとする日本帝國主義の努力は資本主義的産業合理化と新帝國主義戰爭準備に集中されつゝある。

而してこの産業の合理化が、無産青年の生活條件を更に更に劣惡化し、新帝國主義戰爭が、尨大なる世界無産青年の『血潮の河、屍の山』を築く以外の何物をも意味するものでないことは、云はずもがなである。

打續く××××黨員の逮捕投獄、戰闘的勞働者農民の陣營を絶え間なく見舞ふ白色テロルの嵐は、日本帝國主義の內包する矛盾の益々尖鋭化を、換言すれば新帝國主義世界戰爭の危機の切迫を物語るものである。

斯うした日本帝國主義の客觀的情勢は、必然に無産青年の使命を次の如く規定せしめるのである。

一、この新帝國主義戰爭を通じて必然に擡頭する國內無産階級の深酷なる不平不滿を××××き、資本家地主の政府を倒し、勞働者農民の政府を樹立するための××的無産階級運動の一翼としての××青年同盟の確立、强化、擴大のための闘爭

二、××反的役割を演ずる一切の社會民主々義的組織殊に中間社會民主々義的青年同盟の無力化破壞のための闘爭……これである

戰斗的青年のこの結論に對する答は極めて明白だ。即ち『異議なしッ！』

戰斗的無産青年の進むべき方向は今日、以上の如く極めて明白である。

然し乍ら、この極めて簡單明瞭なる結論を正しく實踐に於て生かす手段については吾々は今日迄幾多の誤謬を侵して來た。

この點に關する××青年インタナショナルの日本の青年運動についての決議は、我々が無條件に採用せねばならぬ妥當性を有する決議である。その決議の一節に

『わが日本の同志諸君がその前に立つ主要任務は日本に於て××青年同盟を强固にすることの出來なかつた原因を徹底的に總括的に研究ずることである。主要原因は××主義的青年運動の性質及び役割を理解することが出來なかつたことにある。わが日本の同志諸君は社會民主々義の裏切的役割及それに對する闘爭の必要を未だ完全に理解してゐなかつた。わが日本の同志諸君の陣列內に信奉者を見出した理論、即ち如何なる種類の青年團體も、例へそれが社會民主々義者の影響の下に組織されやうとも一つの成功である、との理論は誤れるものと見られねばならぬ。××青年同盟の組織は社會民主々義的青年團體に對する闘爭なくしては不可能である』然り！我々はこの決議に從つて、全國勞農青年同盟の光輝ある解消過程を英雄的に行動せねばならぬのだ。

(三) 全國勞農青年同盟の本質と戰闘的同盟員の使命

わが全國勞農青年同盟はかの七黨合同によつて成立せる日本大衆黨支持團體內の戰闘的青年分子を中心として結成された、全國的組織を有する同盟である。

この同盟の主要構成分子は飽まで戰斗的青年である。またこの同盟は、舊日勞黨、組合同盟、舊農民黨其他の反動的幹部との對立抗爭を通じて結成された。その結成以來の闘爭も相當活潑に展開されただが、それにも拘はらず吾々はこの同盟を反動的役割を演ずる社會民主々義青年同盟なりと規定せざ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

るを得ない。

××青年インタナショナルは。×××青年同盟は、植民地及びソヴエート同盟に對する戰爭の時大なる役割を演ぜねばならぬだろう」と決議してゐる。

斯かる重要なる歷史的使命を持つ青年同盟は××青年同盟あるのみである。

而して、我々が強化擴大すべきものはかゝる××青年同盟であつてそれ以外の如何なる青年同盟でもあつてはならないことは既述の如くである。

全國勞農青年同盟は、その構成分子が如何に戰鬪的であつたとしても、斷じて××青年同盟ではないそれは寧ろ全日本無產青年同盟が戰鬪的であつたにも拘はらず、××青年同盟でなかつたと同じ樣に。

この點に關する限り動かすべからざる確證を擧げるならば、勞農青年同盟の創立大會に於て決定された「鬪爭方針書」に次の如き項がある

「大衆的青年運動とは（略）前衛的青年同盟との區別を意味する」また『個々の青年獨自の政治的經濟的社會的要求を無產階級の合法的尖端として支配階級と集中的に抗爭する無產政黨の政治鬪爭に迄發展せしめて戰はれなければならない』

これ丈けで澤山だ。全國勞農青年同盟が社會民主々義青年同盟であることは以上で極めて明白に看取し得るであろう。

無產青年同盟は、當時の解黨派セクト主義に禍ひされて、誤れる組織形態を採つて進んだが、それでも日本×××の影響下にあつた然るに勞農青年同盟は、合法的無產政黨（社會民主々義黨）の影響下にある、この點より見るも無產青年同盟とは比較にならぬ程の決定的誤謬を侵してゐる、縱から見ても橫から見ても、申分のない社會民主々義青年同盟である。

戰鬪的青年の手によつて結成されたるにも拘はらず、勞農青年同盟が斯る決定的誤謬の泥沼に足を突込んで了つたのは、××青年同盟が確立されてゐなかつたことが、最大の決定的原因である。

然しながら吾々は、同盟結成以來の僅な期間の鬪爭を通じて、早くも勞農青年同盟が社會民主々義的青年同盟に過ぎないことを思ひ知つた、そして、また、最近展開され始めた活潑なる××青年同盟確立の運動は、我々の進むべき方向を明白に具體的に示すに至つた。

吾々には指し示されたる苦難の、だがしかし光榮ある道を戰ひ進むの一途あるのみである。

然るに、勞農青年同盟內部に巢喰ふ左翼社會民主々義者——戰鬪同盟の一群——共は、この吾々の正しき階級的進出を極力阻止し欺瞞し妨害しつゝある。

卽ち彼等は、戰鬪的青年大衆の階級的成長に驚倒した結果、その戰鬪的青年大衆を呼んで「新福本主義者＝眞正々銘の極左小兒病者」だと毒づいてゐる。

解放運動を毒した福本主義は白い手の持主たる福本氏の頭の中から生れた。

然るにこの「新福本主義」は中間派と呼ばれる組合同盟傘下の工場勞働青年の實踐鬪爭を通じて生れたから變挺だ。

それはそふとして彼等が斯くまで狂的に躍づくその理論的根據は何であるか。

この點を究明することは彼等「勞農」一派の左翼社會民主々義的正體を完膚なき迄に暴露するために絕體に必要である。

彼等は勞農青年同盟を社會民主々義的青年同盟だと規定することが出來ない。否、そう規定することは彼等にとつて甚だ大衆を欺瞞する上に都合が惡いのだ。

それは、完全な社會民主主義黨に過ぎない日本大衆黨を、社會民主々義黨として規定することが出來ず、社會民主々主義者と共產主義者の共同戰線黨（實はせらア）だと、大衆をごまかして、さもく自分達こそ眞正共產主義者でゞもあるかの如く振舞つてゐるのと同一の理由によるのだ。

彼等は云ふ「大衆の日常當面の現實的な政治的利害の一致を結合の基礎としてゐる」のが共同戰線黨だ、と。而して彼等の所謂共同戰線黨的青年同盟こそ全國勞農青年同盟なのだ。そこて、勞農青年同盟は、社會民主主義青年同盟でもなく勿論××青年同盟でもないのだ。かゝる思想は、かの解黨派福本主義の惡影響の殘滓の最惡の部分を代表するものであつて、わが日本の戰鬪的プロレタリアート、及技術家が、今や完全に淸算しつくした處の非階級的思想である。

吾々は彼等の斯かる主張を次の如く理解する。彼等は愚にも前衛の組織は大衆化し得ないと考へてゐる、若しくは考へてゐるかの如く裝つて大衆を欺瞞してゐるのだ、と。

斯ふした中途半端なスキだらけの理論を後生大事に抱え込む——勞農一派——は、勞農青年同盟東京府支部創立大會に於て會場正面に掲げられたる「左右社會民主々義と戰へ」＝「プロレタリア青年同盟萬歲」のスローガンの撤回を叫ぶの驚く可き反階級的結論に到達するに至つたのだ。何故なら左右社會民主々義と戰つたり、××青年同盟萬歲を叫んだりすると、共同戰線黨的青年同盟とやらが壞れるからだ實に驚き入つた結論だ。これでは一體資本家地主とどこが本質的に違ふのだ。

勞農一派は斯うしたごまかしで以て、自己の左翼社會民主々義者としての正體をゴマカさうとしてゐるのだ。

だが、無產青年には××青年同盟一つあれば澤山だ。××青年同盟の大衆化こそ吾々が、眞正面に揭げて進むべきスローガンでなければならぬ。

××青年同盟とは全然別個の青年同盟を持つ必要は斷じてないのだ十×青年同盟とは別個に青年同盟

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

が持たれる限り、それが如何なる名目で持たれようとも、その構成分子が如何に戰鬪的であらうとも、それは、矢張り社會民主々義青年同盟に過ぎないことを、我々は、今やはつきりと知つた。

勞農一派は我々の同志ではなくて最惡の敵なのだ。

わが全國勞農青年同盟東京府支部の創立大會(解散後の非××大會)に於て滿場一致決定された『戰統同盟排撃の件』が正確に指摘してゐるが如く『帝國主義日本ブルヂョアジーの要求に應じて勞働階級内部に派遣されたる資本家階級の代理人左翼社會民主々義者『勞農一派』を徹底的に粉碎することはわが戰鬪的勞農青年同盟員大衆の階級的義務である更に彼等は一應××青年同盟組織の急務を認める

また、××黨の強化を云々する。然しながら彼等の實踐はどうだ、彼等の實踐は裏切りの連續以外の何物でもないではないか、最近彼等の戰統同盟は、×××××萬歲のスローガンを掲み出した。そして俺達は×××××の強化擴大のために戰つてゐるのだとデマを飛ばしてゐる。然しながら奴等が如何に口に×××言辭を弄して戰斗的大衆の進出を阻止しやうとしても、事實上×××と對立する戰統同盟を解消せざる限り、奴等は依然として資本家地主の手先に過ぎないのだ。かくの如く口に××的言辭を弄して、一かどの××主義者らしく振舞ふものこそ左翼社會民主々義者なのだ。

(四) 勞農青年同盟の解消過程

同盟東京府支部の『斗爭方針書』は云ふ。『同盟が眞實に階級的目的を進むためには如何なることが必要か、斷然たる質的轉化への努力と鬪爭と、そして社會民主々義的指導と影響からの理論上及組織上の完全なる獨立これである。それは戰鬪的プロレタリヤ青年組織への進出であり、その大衆化への協力であり、實にわが同盟の英雄的行動による解消過程を意味する』と。

全國勞農青年同盟の解消とは、今直に同盟を解散せよといふことには決してならぬ。若しさうした考へ方があるならば、それは餘りにも機械的な小兒病的な誤れる考へ方であつて、直に訂正されねばならぬ。

然らば吾々はこの光輝ある解消過程を革命的に行動するために、當面如何に行動すべきであるか。

(一)勞農組合の自主的青年部確立のための鬪爭

(二)勞農組合の自主的婦人部確立のための鬪爭

(三)勞青内の左右社會民主主義幹部との無慈悲なる鬪爭

(四)××青年同盟支持の非××的グループの確立(『無産青年』讀者の精神的獲得のための鬪爭)

わが勞青内の戰鬪的分子の任務は以上の如く××青年同盟の方針の大衆化への協力でなければならぬ以上の鬪爭のために勇敢に活動することはまた同時に、社會民主々義青年同盟としての勞青の無力化を意味し、その解消過程を意味するものである。

新帝國主義戰爭の危機と戰へ!

左右社會民主々義と戰へ!

(勞青内の[illegible]左翼を粉碎せよ!)

××青年同盟の大衆化萬歲!

×××××萬歲!

反帝國主義同盟支持の檄

全國勞農青年同盟

親愛なる全國勞農青年同盟員諸君……

第二回反帝國主義世界大會は來る七月二十日から三十一日迄佛國巴里で開かれることゝなり、既に世界各國の支部に對して大會招集狀は發せられた。

我が日本の無産階級も是非共この光輝ある世界大會に代表を送らねばならぬ。また、わが同盟として此の大會に祝賀文を送つて全世界の被抑壓大衆の代表者に日本の戰鬪的無産青年の燃ゆるが如き反帝國主義の精神と果敢なるその實踐を告げ知らさねばならぬ。

(中略)

臺灣に滿洲に山東に、就中現在の田中反動内閣の滿蒙積極政策によつて日本の勞働者農民の拂はされてゐる犧牲の如何に大きいものであるかは改めて云ふまでもあるまい、だが、然しこれだけの犧牲を拂つて俺達の生活が少しでもよくなつたか、斷じて否だ!

勞働者、農民の×血や××によつてダン〱肥太つたのは實に××帝國主義ブルヂョアジイではなかつたか、茲において、われわれはハッキリと知る。×等の『國運發展』が何を意味するかをはつきりと知る。親愛なる全國勞農青年同盟員諸君、

更に俺達は考へねばならぬ、一體俺達のこれ丈の犧牲が殖民地半殖民地の勞農大衆に如何なる影響を與へてゐるのか?これに對する答は簡單だ。内地に來て働いてゐる朝鮮や支那の兄弟の生活を見よ!これだけ云へば澤山だ。

親愛なる全國勞農青年同盟員諸君!

俺達の相手は××帝國主義だ。また殖民地半殖民地の勞農大衆のたゝかひの相手も俺達の相手と同一だ、日本内地の兄弟と殖民地の兄弟との結びつき、また延いては世界各國の諸列強と殖民地大衆との結びつきこそ、帝國主義打倒、勞働者農民、殖民地大衆の解放の唯一の路なのだ。だから俺達は、反帝同盟を支持し、反帝同盟日本支部をつくるのだ。第二回大會に代表を送るのだ。

反帝同盟日本支部設立に協力せよ!

(昭和四年五月廿一日)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

全産業労働組合の反動性

千波葉一郎

労農一派の全産業労働組合は其の名称にふさわしい、實に目鼻の見分もつけられぬ海鼠のような組合だ。

此のだらしのない組合こそ、我がプロレタリア×への組織的批判者として労農一派の一枚看板たる横断左翼がでつち上げた代物なのである。

もう、いぢけ切つてしまつた頭曲りの分派主義者（労農）は、此の海鼠を称して『左翼組合』だとぬかして居る、尤も横断左翼の組織を以て、プロレタリア×の外廓を成すものだと、ほざくんだから始末におへない、諸君！白い手の紳士共も案外づう〳〵しいではないか。

その反動的本質

全産業労働組合はたゞに左翼組合でないばかりではない。

産業線に沿ふて労働者を組織することが、資本の闘争に於ける最も戦闘的な、そして大衆獲得の上に於ける決定的な組織的條件である産業別合同主義に對して、労働者組織の原始的形態、一大組合主義(ワンビックユニオン)を以て對立して居る。

また、産業別會議を通じて産業別労働組合の確立の闘争を遂行せんとする、全國労働組合會議の階級的結成方針にも眞向から對立するものである。

それは、大右翼結成を以て全國労働組合會議に敵對せんとする総同盟や、全國労働組合會議の結成を妨げて中間派諸分派を結成せんとする組合同盟と同じく、反動的な存在であり、悪意に満ちた反左翼的組織であり、其故労農一派の裏切的實践である。

先づ、考へて見ようではないか我が國、労資對立の現勢は集中され、産業的に統一されつゝある餘りに強大なる資本の陣営と、数個の中央部を成す聯合體と無数の獨立組合からなる、支離滅裂にして餘りに弱少なる労働者の組織とが對立して居る、

そして威力を持つ資本の攻勢と高まりつゝある労働者の反抗は、無数の指導なきストライキさへひん發しつゝあるではないか

かかる時、聯合體に於ける産業別整理、合同の要求は力強き反幹部派の闘争となつて現はれ、獨立組合は、全國労働組合會議の結成を待ちのぞんで居る。即ち労働者大衆はプロレタリア×の指導による全國労働組合會議の結成及び全國的産業別組合確立のために闘争し始めたのだ。

これが我が國労働組合運動の現勢を特色づける客観的條件である故に今更一大組合主義が飛び出さねばならぬような條件は存在しないのであり、全産業労働組合は其故、組織的批判者としての労農派の分派的表現（全く主観的な）以外の何物でもない。

最近総同盟や組合同盟の反對派は産業別合同の爲めの闘争を正しく理解し、新しい活動を始めて居る、而も組織的非妥協的に更に大衆的に裏切幹部との闘争は開始されて居るではないか。

此の大きな階級的方向への動揺に對して、具體的對策も立たず、此の大衆的組織の中に喰込むことも出来ない彼等は左翼である筈がないし、また其の無力さの故にこそ一小分派として獨立した全産業労働組合は現實に裏切をつゞけて居るのである。

全産業労働組合は各産業委員會の結成に基づいて居るとか、産業別労働組合への一階段になるのだとかうそぶいたところで、その反動的性質を誤魔化すわけには行かぬ。

全線的に呼び起されて居る労働組合の産業別的再組織の聲と、其の具體的闘争の現はれに氣が注かないのか。

労農派はつんぼなのか、それともミイラとなつてしまつたのか。

たゞき潰しの一手でやつゝけろ

全産業労働組合は、かくの如く反動的結成である。

それは根本的に左翼と對立し、産業別合同主義に對する一大組合主義として（組織上の進歩主義に對する原始主義として）對立する

かくして其の方向は明かに労農派の理論的破産と關聯する。

そして、それが到來しつゝあるのだ。

日本大衆黨の内紛、分裂と戦線統一問題に於ける労農派の理論的實践的行き詰り、横断左翼戦線同盟の大衆よりの分離、最近、労農青年同盟大衆のプロレタリア的進出に於ける、彼等の無惨なる敗北、それから既に始つた彼等一派の内部的少分派の闘争、等は何れも労農一派の破産を具體的に物語つて居る。

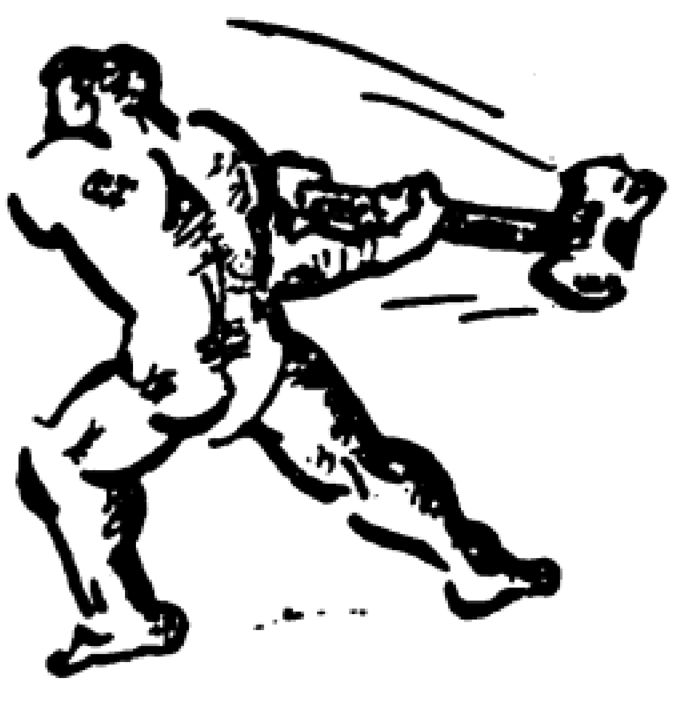
全産業労働組合は速かに解體されねばならぬ、然しそれは破産しつゝある労農派によつてではなく此の破産を闘争しつゝある、左翼及反對派の産業別労働組合確立の闘争と統一戦線戦術の階級的適用によつてである。

また、大衆的組織を具體化して居ない全産業労働組合に對しては眞ッ向からたゝき潰しの戦術で其の反動的運動を最少限に押しやるべきである。それは総同盟や組合同盟の如く厖大なる大衆を擁する反動的組合に對するとは意味が異ふ。それは

左翼や反對派の息もつかせぬ理論的、組織的追究によつて、あらゆる機會をとらへての暴露と行動によつて、たゝき潰しの一手でやつつけるべきである。

一九二九、五、一七

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



無産者新聞發行禁止反對

布施辰治

私共の時局批判に最も重要緊急な問題は、我等の無産者新聞發行禁止の彈壓でなければならない。

依つて私は、無産者新聞發行禁止の彈壓批判を實行に移す法廷鬪爭について語らう。

×

『無新』發行禁止反對の控訴公判は、來る六月六日である。其の裁判は、係裁判長島保、係檢事大石一郎、辯護人は私共といふ限られたる判檢事と辯護人との立會に依つて開かれるのであるが、其の對立は、資本家地主一連の有産階級と勞働者農民無産階級の法廷鬪爭なのである。そうした階級對立をまざ〱と物語つて居るものは、第一審に於ける『無新』發行禁止を要求した檢事の論告である。

然らば彼等は、輝ける我等の『無新』に對して何と論告したか！曰く、

『無新』は吾々にとつて無用である。『無新』の存在は、吾々の社會を擾亂するものである。とホザイたでは無いか。それ故に私共の法廷鬪爭は、最も戰鬪的な勞農無産階級の鬪爭として『吾等の無新を護る』法廷鬪爭の使命を任じて之を戰ふのである、と同時に、そうした私共の法廷鬪爭は、無産者の支持があることによつてのみ强く又其意義と勝利とが有うるのである。だから、吾等の『無新』を守る勞農大衆は、私共にのみ『無新』發行禁止反對の法廷鬪爭をまかせておくやうなことがあつてはならない。

其のために、私は、『無新』發行禁止反對の法廷內外の共同戰線を張る戰鬪的勞農無産大衆の戰士として法廷に起つ戰術の一部を發表して、勞農全無産階級の覺悟と參加とを要求する。

二

それについては、先づ、事件の內容を明かにしなければならないけれども、其の內容を新聞紙法違反だと云ふて居る官憲は、その詳細を語ることを恐れて居るのだらうから其の大體のみをいふが、(1)京都學生事件の批判的報道(2)三、一五の暴壓檢擧に對する徹底的抗議(3)對支絕對非干涉の提唱(4)帝國主義世界戰爭反對等に關する諸論文が、彼等の安寧秩序を紊亂するといふので、新聞紙法第四十二條、同第四十四條の發行禁止を振り翳して居るのである。而も彼等の安寧秩序なるものは果して何か！それこそは彼等の特權維持では無いか。不勞搾取の金儲けを保障する城塞そのものではないか。そして、勞農大衆を永遠の奴隷に繫ぐ彼等支配階級の鐵鎖其ものではないか。働いても働いても喰ふ事の出來ない勞働者農民を飢困のドン底に陷れる穿穴ではないか。彼等の所謂安寧秩序は吾等に取つての不安寧であり無秩序である。そして生きるものゝ進化を逆轉する反動そのものではないか。

斯うした安寧秩序紊亂の××を以て我等の『無新』に發禁を彈壓する裁判こそは、資本家地主の手先を擁する階級裁判そのものなのである。だが、その點についての批判はしばらく此程度に止めて置かう。

そして、假りに彼等の安寧秩序を害されたにもせよ『無新』はどうして發行禁止の彈壓を受けなければならないのか、彼等には安寧秩序を紊亂する新聞紙に發賣頒布を禁止押收する新聞紙法第二十三條があるのではないか。更にさうした同一記事の繼續を許さない同法第二十五條があるではないか。にも拘はらずそして續けざまの發賣頒布の禁止彈壓をしながら同一記事の掲載停止命令も出さず、突然斷呼『無新』を發禁するとは何んと云ふ橫暴だ

私は、其の點について、彼等の意圖の何物であるかをヘツキリ洞察してゐるが、茲に、その洞察のままを演說する事を避けて、言論の自由な法廷辯論に讓らう。

そして、ここでは側面からの『無新』發行禁止批判として無新の發行禁止は、死刑の宣告だといふことを諸君の記憶に訴へて所謂死刑なるものの如何に慘忍野蠻なものかといふ事を强調しよう。

（一）死刑は最惡の私刑である。一言に評する死刑の野蠻さは、面倒臭い殺して仕舞ふ、と云ふ野蠻時代の私刑である。序ながら云ふが、借家爭議に小作爭議に地主、家主の、面倒臭い借家人や小作人から小作地や借家を取り上げて仕舞へと云ふのも左樣した野蠻人の反動思想である。

（二）死刑は刑罰者の無力を表白するものである。即ち、如何なる罪人でも悔過遷善させるといふことに依つて成立する刑罰權が、其の悔過遷善を不能と諦めた刑罰權の合理性を拋棄した無力の表白に外ならない。

（三）死刑は國家權力者が被告との實力鬪爭に敗北する事を裏書きするものである。即ち生かして置いたのでは、國家の權力を以てしても、その活動を防止することの出來ない實力的鬪爭の敗北に脅かされる臆病者の滅多斬りである。

（四）死刑に法律的權力的の擁護を虐殺さむとする殘忍性の暴露である。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

何と、死刑といふものゝ慘虐なることよ！　而して、之を振り廻すものゝ卑怯なことよ！

斯うした卑怯野蠻な死刑を、我等の『無新』に振り翳した發行禁止の彈壓こそは『無新』の如何に力強き鬪爭の武器であることを物語る以外の何物でもないのだ、と同時に、私は、死刑を恐れざるものゝ戰ひこそは、死刑を以て最大の彈壓とする權力に打勝つであらう、鬪爭の必勝を確信する。

更に私は、新聞雜誌發行禁止の死刑は、事實上の無効無力を表白するに過ぎないであらうことを斷言する。

見よ、夫に『新無新』の計畫が之を實證して居るではないか、更に見よ、我等の『無新』は、彼等の發賣頒布禁止と押收とを踏越えて、發行せられてゐるではないか。

如何に彼等が彈壓しても、勞農無産大衆の支持する『無新』は、永遠に續くであらう。（六月四日記）

國家總動員計畫を粉碎せよ

同志上杉はハガキ一枚で四百圓

×

入營前まで、進め社本部員であり、勞農青年同盟員であつた上杉定義君は、入營に際して『帝國主義戰爭の嫌ひな××になる』とのハガキを同志に對して送つたが、その一枚のハガキは、帝國主義戰爭の準備に狂奔しつゝある支配階級の驚怖するところとなり、郵便法とやらで、四百圓の罰金、或は二百日の體刑を軍法會議は申渡した。

その上、一切の無産階級運動の團體には通信してはならないぞと申渡した。われわれ、全國勞農青年同盟常任委員會は、即時、この不當なる彼等の壓迫に對して抗議するところがあつた。それは、一片の抗議書を送つて支配階級の特別の思召をお願ひするのでは斷じてないのだ。

われわれの抗議は、工場と農村に働いてゐる勞農大衆に、かゝる事實を示し、反帝國主義戰爭、反帝國主義の鬪爭を強力に×動宣傳することである。

×

見よ、同志上杉の受くる迫害は決して、上杉一個人の受くる迫害では斷じて無いのだ。戰鬪的青年大衆全體の受くる迫害なのだ。

帝國主義戰爭——資本家地主の爲めの、勞働者農民の犧牲の上に立つ——には、無産青年大衆の動員を絶對に必要とするのだ。彼等は長い努力を續けて官僚青年團、在郷軍人會に軍國主義の煽動を集中し、更に具體的には、青年訓練所、學生の軍事教育を強制して來たのである。かくの如く、彼等が青年獲得のため躍起になつてゐるのは、帝國主義戰爭の準備資本主義の安定への努力以外の何者でもないのだ。

×

上杉と同じく本社員である同志赤尾は上杉より一年前に入營したが、これまた一年餘の監獄入りをしなければならなかつた事は既報した通りであるが、同志赤尾は無事で東京衞戍刑務所から去る廿二日出て來た。

これから又松本で勤める事になるが、彼もまた勇敢なる反ミリタリストである。

×

今月の六月廿日から三十日まで大阪を中心として行はれる國家的總動員の演習は、世界帝國主義戰爭に臨む××資本主義の、國家的な大準備である。

かゝる露骨なる帝國主義戰爭の危機に直面して、われ／＼無産階級は、政獲勞農同盟の提唱した反戰週間に參加し、デモとストライキをもつて、反戰、反軍の鬪爭を××しなければならない。

工場と、農村における研究會等には、必ずこの支配階級の反動的計畫を中心にして語られなければならぬ。

×

櫻田本郷町の角に出來た飛行館なるビルヂングは、ミリタリズムの典型的なビルヂングである。試みに見よ、窓にかざられた敵機の襲來した都市の悲慘なる光景は、全民衆に、われわれは軍備を擴大し強大化さねばならぬと云ふ事を×動してゐる。誠に巧妙なる軍國主義の宣傳ではないか。

このミリタリズム、ビルヂング飛行館は又どれだけ民衆の目をゴマカすだらうか。しかもそれが空の英雄なる幻影を人々に與へてゐるだけに青年大衆を容易にゴマカし得るのだ、われ／＼は、飛行館をアバかなければならぬ。ミリタリズムは、ビルヂングの武裝をして、東京の中央にその巨姿を現はして來た。

×

ハルビンにおける露國領事館に支那官憲を襲はしめたものは誰か。

支那勞農大衆の×國ロシヤに對する列國の干渉はいよいよ猛烈になつて來た。何故なら彼等にとつて、やがて起るところの帝國主義戰爭によつて分割しようとする支那が、×××による政權でも樹立されたならそれこそ大變だからである。支那のみならず、戰爭に反對する鬪爭が植民地半植民地又諸列強國内部に強大になつて來たのは、いづれも、ソビエツト・ロシヤの兄弟達と握手してゐるからである。

來るべき新戰爭は必ずや、ソビエツトロシヤに對する侵略に轉化される。全世界の勞働者農民は、×××を守らなければならない。

帝國主義戰爭絶對反對、
×××××、×××を守れ、
反帝同盟を支持せよ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

資料

朝鮮社會運動小史（三）

裴成龍
K・K・M譯

一九二二年は直接勞働者階級が始めて勞働運動を開始した歳である。春期より晋州、順天等地を筆頭にして各地に小作人團體が組織されたり、小作人大會が開催された。之は勿論時代の要求に應ずる自然發生的な潮流ではあるが、しかしながらその基本的方面の運動は社會運動若くは勞農運動に目的意識を有する指導者諸君の努力的産物であることを忘れてはならぬ。特に朝鮮に於ては、都市の勞働よりは農村の小作運動がより先に發展すべき多くの理由と原因を有するのみならず、指導者諸君の努力の大部分も矢張りその方面に集注されたのである。即ち近代的産業發達の趨勢にありては、朝鮮の如き農業國は極めて不利なる立場に置かれることを餘儀なくされ、其の耕作方法も集團化されなかつた依つて外來資本主義の威力は經濟的餘裕の不足である農村に侵入して、その經濟的生活體系全體を破壞し、攪亂せずにはをかなかつた。

朝鮮に於ける生産者の受くる資本主義的疾苦は誰よりも先づ農民がより多く之を受け、地主對小作農民の關係は封建社會に於けるそのものを其儘傳受履行したものである關係上斯ゝる激烈なる農民運動が蹶起するのは當然過ぎる當然な事柄であつた。

その當時小作人等の地主に對する經濟的要求條件は、小作權の保障、小作料の輕減、舍音（中間搾取者—譯者）の撤廢等で、之は初期に於ける農民運動の共通的條件であつた。

けれどもその秋期以後に於ける情勢は、農民運動の抗爭的本質が具體的に實現するに至つた。即ち鳳山西鍾面東北里大垣墅白會社農場小作人八十餘名はその會社所屬農監を亂打したる事件を始めとし順天郡の千六百餘名の小作人の保爭者を出した大規模の小作爭議と晋州、寶城等の小作爭議等は、實に初期のそれに比して大なる差異を示してゐる。その要求條件を一瞥すると

一、小作料を全收穫の四割にする事
二、地税と公課金は地主の負擔にする事
三、斗量には必ず木桝を使用する事
四、小作權を故なく移動せざる事
五、地主は小作人に無償勞働をせしめざる事
六、小作料運搬は一里を超過せざる事
七、舍音は公平なる者を任用する事
八、天災地變に關する損害は地主の負擔とする事

等の如きもので各地に於ける要求條件は殆んど同一なるものであつた。

以上の條件は朝鮮に於ける特殊的事情としなければならぬ、時代遲れの條件ではあるが緊急を要する問題であつた。之に依つて見ても朝鮮に於ける地主階級の無理、橫暴、不法の如何であつたかをほゞ推察するに難くない。從つて農民運動が斯くも短期日であるが、最も果敢に、組織的に行はれたのも、あながち偶然ではなからう。

且つ、勞働運動方面に於ては、京城に於ける洋靴職工賃銀値上、待遇向上問題に關する同盟罷業が十二月に起り、勝利なく雙方の讓歩に了つた。

なほ一方には、自由勞働者、擔軍、其他下級自由勞働者に對する不法取締りが多いため勞働大會の主催の下に彼等を召集して大會を開き不法取締の反對を決議し決議文を印刷宣布した。而して之は組織化し、自由勞働者組合を結成するに至つた。

×

朝鮮に於ける思想上の對立的論爭戰が始まつたのは一九二二年の秋期からである。『東明』『朝鮮之光』『新天地』『新生活』等新聞紙誌に依る週刊月刊の雜誌を通じての熾烈化する理論鬪爭は實に一大壯觀であつた之は決して一部的な理論家等に依る鬪爭ではなく、實に全鮮的な事實であつた。就中、忠實にその主義宣傳を努めたのは『新生活』と『東明』の二誌であつた。前者が唯物史觀的見地にて社會主義を高調するに反し後者は民族の一致、民族的團結の標語の下に圖つた。けれども後者の民族團結の標語が次第に力を衰へて、民衆は階級的團結といふ前者の指導に導かれるやうになつた。斯かる狀態で『新生活』は當局の咀呪する處となり結局一九二二年を辛うじて了へると發行停止の運命に遭つて仕舞つた。

これより朝鮮に於ける凡ゆる階級は、社會主義及び民族主義に對する本質を窺明し暴露して、自己は何れの指導精神と、標語の下に進むべきかに就て、眞面目に考へるやうになり、隨つて、理論鬪爭の戰野は益々熾烈化し、未曾有の混亂を來したのである。

×

朝鮮の運動が少數の識者階級の手より多數の民衆の手に移動するに隨て資本主義的文化建設運動、民族的運動は資本主義の立場に於て全く敗北の運命に外なく、朝鮮民衆は直接利害を中心とする經濟的×××方面に進出するやうになつた。

それ故に、民族運動の方面を職

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

べて見ると、その識者階級に於ては、更に更に最後の努力を捧げてゐるけれども大衆層は衰退の氣勢を示した。

一九二三年は新春元旦より〇〇黨の年賀狀が朝鮮京城に舞込み當局の警戒は實に嚴重であつた。而して京城に於ける有志紳士階級の懇談會及び文人會の新年會、新生活社の新年會が悉く無産青年達の襲撃を受け、主義者の警察署引致、苦學生カルトップ會の捜索、學生被捉等料理店を中心として無産對有産の風波が絶へなかつた。而して、それに引續き『新生活』の發行停止、同筆禍事件で朴熙道金明植、兪鎭熙、辛日鎔君等の獄舍記として各々最高三年の判決を言渡された。

なほ、鐘路署の爆彈事件に依る負傷者事件、南大門外に於ける金相玉の巡査射殺事件、孝悌洞に於ける警察隊の金相玉射殺事件等新事件等が續出し新聞號外の續出を見、流言が流行して、社會は險惡な空氣に充されてゐたゝめ總督府は直に各警察課長會議を催し社會主義に關する取締方針を討議し、地方にはまだ文化運動、物産奬勵運動、禁酒運動が起り、教育の普及、學府の新設運動が社會の各方面に起つた。

なほ、朝鮮青年聯合會と、民友會を中心に朝鮮物産奬勵會が創立され、朝鮮教育協會を中心に民立大學期成會が發起された。これらの二種の運動が朝鮮に於ける民族的新生運動の特筆すべきものであらう。

×

斯くする中に朝鮮社會運動中特に發展を示してゐる青年運動が更に大規模で計畫を改めて運動を開始した。之は即ち二月中に於けるソウル青年會外二十個團體の主催に係る全朝鮮青年黨大會準備會がそれである。

この黨大會は朝鮮青年運動を文化的運動方面より階級的運動に方面を轉換せしめんとする全國的運動であつた。いまその主催文の一節を紹介ずれば左の通りである。

——前略——民衆を離れたその團體、その運動は到底生命のある存在を永續せしめることは不可能である、斯かる關係より人間としての當然なる要求と同時に大勢と合致する朝鮮民衆運動の大動機たらしめんとして茲に吾等團體の聯合主催にて一時的全朝鮮青年黨大會を召集する、之に共鳴する青年團體は一齊來參して胸襟を吐露し肝膽を相照して當面の死活問題を協議解決し以て具體的實現を促進すると同時に大衆運動の新活路を開拓されんことを希望するものである。

斯くの如くで、同大會は各種青年運動者の絶大なる後援の下に同三月廿四日京城に於て豫定の如く大會が開催された、參加團體が九十四、出席代表百五十四人、個人五十餘人であり同大會の順序を見ると第一日より第五日に亘り各參加團體代表資格及個人保證審査、本大會開催準備委員會經過報告、會議日程順序議事進行機關としての各分科會設置、其他諸般事項討議等事案を處理し、二、第六日より第七日までは各分科會會議を開き、三、第八日は各分科會議決案を大會に上程討議せんとしたものである。分科會議案と志願人數に對しては第一分科會議は婦人問題宗教問題、教育問題を八〇名にて討議し、第二分科會は經濟問題、勞働問題を四〇名にて討議し、第三分科會議は民族問題、社會問題青年團體不立及發展策を二十七名にて討議することに決定した。

而して同大會の宣言内容を要略すれば左の如くである、

一、貧富の懸隔と階級の軋轢がなく凡ゆる最高文化的享樂生活を對衝にする××××××を目標とし

二、正義、平等友愛の××××××せんが爲め×××××團結し組織的に訓練を爲す

との意味であり、各分科會決議案の内容にして目立つものは

一、教育問題に彼の××××を××せんがために勃起せる無産者の知的慾求を啓發せしめんとする事

三、宗教問題にて教會が×××の×××××であると云ふもの

四、社會問題にて第一有産階級のみを擁護する凡ゆる通語、言論機關を排斥せんとする事

第二詐欺共産黨事件關係者に對して個人的又は團體的に絶交する事

第三物産奬勵運動を撲滅せんとする事

五、青年團體問題にありては各地青年團體を根本的に改造して大衆的×××動線に其××とならん事

等であつた。

之に依つて觀るとこの大會が朝鮮青年運動として確に階級的團結運動にその方向を轉換せしめんとして企圖したものであつた。けれども同大會は最終日の集會即ち分科會議を了る第七日三十日午後に至り安寧秩序妨害との理由で翌日の分科會決議案を合同決議せんとする總會を禁止した。依つて同大會の宣言と、決議案は止む得ず各分科會代表委員會にて採用することに決定した。

同大會は全朝鮮青年の總力を集中して創立したる[illegible]朝鮮青年聯合會に對しては實に致命的打擊であつた。勿論同大會に參加したる九十四個團體中には朝鮮青年聯合會に加盟せざる團體もあるが殆んど全部がその所屬團體であつた。處が同大會の宣言と決議は斯くの如く聯合會の主張綱領と絶對的に背馳するもので各地方青年團體の思想的中心傾向が最早聯合會中央本部のそれに一致することは不可能である。

朝鮮青年運動の中心勢力が階級的意識に方向を轉換するに至つたのは之が一大樞機となつた。

（未完）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

日本大衆黨崩壞萬才

われわれは如何に戰かつたか！

下村靜夫

日本大衆黨は遂に分裂した。全政治戰線の統一へのスローガンの下に花々しくその一歩を踏み出したやに見える大衆黨が、半年を出でぬ今日何故にかくももろく崩壞したか。この事實の究明は、少くとも無產階級運動への關心を持つものにとつては、極めて重大な意義を有するものでなければならぬ。

×

われわれはかく考へる。

七黨合同——即ち日本大衆黨の成立は、赤松克麿君の言葉によればボロ會社の寄り集まり整理合併に外ならぬと、又左翼、當時の新黨準備會の方から見れば、前衛に對立する社會民主主義者の合同だと云はれた。そのいづれの言葉も正しかつた。洵に、沒落に瀕せんとした日本農民黨及び九州民憲黨と創立以來戰線統一を唱へる事によつて表看板としてゐた日本勞農黨と、合法主義を奉じて新黨準備會から脫落した無產大衆黨が、期せずして自己保存の立場から、或は勢力伸張の野望の下に、それに合同によつて何物かを得んとする反動的意圖が、それに拍車を加へて成立したものであつた。

七黨合同は、日本無產階級運動の若き成長の故に生れた中間派の存在が、支配階級の彈壓或は選擧鬪爭の試練を經て、次第に成長し確立し行く無產陣營内の二大勢力即ち社會民主主義（社會民衆黨）と共產主義の陣列の强大化に伴ふて、その存在の立場を失ないかけた事によつて生れた事は爭ふ事が出來ない。しかし、七黨合同當初においては、其の量的勢力の增大と、所謂戰線統一主義のカラ騒ぎによつて、無產陣營の可成り廣汎な區野を形成した。當時にあつては、尙相當の時間、この勢力は崩壞しない樣に見られた。中間派の存在の客觀的條件が消滅しつゝあるとは云へ、急速に崩壞するものとは思はれなかつた。即ち、××黨と、社會民衆黨の確立とに伴つて、消滅して行くべき運命を有してはゐたが、決して急速なるテンポをもつて進展すべきものではなかつた。

然るに、この日本大衆黨を半年もたゝぬ間に崩壞せしめたものはわれ等の淸黨運動同盟の鬪爭であつた。淸黨運動は一見して分裂主義者の如き外見を有するし、又、日本大衆黨の指導者の逆宣傳が飛んでゐるか、わが淸黨同盟は常に階級的立場を守つて來たし今後も階級的立場を捨てるものではないこの淸黨同盟の鬪爭の如何に階級的性質を百%ももつてゐたかは、淸黨同盟の發生の根據とその步み來りし路と、今日の方向を見極める事が必要である。

×

淸黨同盟は日本大衆黨の合同と同時に生れた幹部の醜態、裏切りを暴露して發生した。當時にあつては、淸黨同盟派は大體の傾向として黨内の反幹部的傾向として生れた。（一部分は最初より共產主義の立場より社會民主々義政黨の暴露を意識しつゝ行はれたけれども）だから、淸黨同盟は、日本大衆黨の階級性を守れ、分裂絕體反對のスローガンを引提げて戰つた一切の黨内反幹部勢力は、淸黨同盟に追從すると否とにかゝわらずこの問題を取上げて戰はざるを得なかつた。

殊に舊無產大衆黨系の一連は、本部乗取りを策するはこの機ぞとばかり、淸黨パンフレットに指令を入れて全國の（こういふと大きく聞えるが）支部に送附した。だが彼等は淸黨同盟を利用しやうとする立場からこの問題を取上げた事は疑ふべくもない、しかし、彼等は反對に淸黨同盟に利用され、結果に於て黨内左翼分子から取殘され同時に日本大衆黨のダラ幹からも除外され、遂に孤立した。

勞農派の孤立、これは如何にして說明されるのであるか。

それは、淸黨同盟が單なる反幹部運動から脫却して、左翼の立場よりこの鬪爭を遂行する樣に轉化したからである、即ち、共產主義×に對立する社會民主々義政黨打破といふ極めて階級的立場に飛躍したからであつた、淸黨同盟は、この立場に立つ事によつてのみ、初めて、此の鬪爭を百パーセントに戰ひ得たのだが、淸黨運動のかゝる轉換は、日本大衆黨といふ社會民主々義の反動のカチ〱政黨を、後生大事に守らんとする勞農派の淸黨運動、適切には反幹部運動と、對立矛盾して來るのは理の當然であつた。

勞農派の本質、即ち左翼社會民主々義共は日本大衆黨を守る事を約束されてゐる以上、反幹部運動をより强力に展開し得なかつた、それは、勞農派が頭ばかりの組織であり、堺の樣な金タメ主義者や鈴木、黑田君の樣な紳士諸君の集まりだからである、だから、平野のみは攻擊しても、元兇の頭目諸先生の攻擊は一言も言つた事がないのみか、ペコ〱頭を下てさへ居たのだ、日本大衆黨から孤立しまいとして、彼等はかゝる日和見的行動をとつたのであるが、日本大衆黨のダラ幹共は、即ち田所、河野、三宅等は無產大衆黨の紳士諸君の相手としては餘りに役者が上手であつた。最後のドタン場に來ると平野、中澤等の脫退組と同樣に除名され、大道君等の組織した除名反對同盟もまたゝく間に首を

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

切られた●

　勞農派の行方は、最早、地方政黨をかり集めて一黨の面目たらん事を策するより道はない、即ち、左翼社會民主々義者を打つて一丸として、左翼化せんとする大衆を食ひ止めるべく狂奔し、支配階級の御用をつとめることゝなるであらう。

×

　一方舊日勞黨幹部は斷乎として日本大衆黨を守る事を血盟したとの事である。その企圖は甚だ勇ましい。だが、政友會と取引した反動政黨を守り、その元兇を死守しようとしても、最早舊日勞黨の左翼は彼等の影響下には止まらない集まるものは非戰鬪的な部分のみであろう。

　のみならず、最早彼等には大衆を惹きつけるだけの餌食さへ持たない。戰線統一主義は流石の用所君もやれまい。平野、鈴木等を除名してから、舊日勞黨の幹部諸公は毎日本部に集まつて、陣營の建直しを策してゐるとの事ではあるが、——

　彼等は反動の色彩を濃厚にして沒落する運命を目前に控へてゐる

×

　舊勞農民黨は、日本大衆黨を脱退後、社會民衆黨へ入黨すべく申込んだが、平野では一寸向ふも考へたらしく拒絶した。平野の農民黨である限り社會民衆黨には入れない。だから、彼等は目的通り愛國無産黨の組織へ邁進するであらう反動陣營が(建國會その他)平野の行爲をニセ愛國主義者と云つて排撃してゐるのは、地盤荒しが怖しいからである。彼等にとつては、農民を持つた平野の反動入りは、何等の大衆を持たない反動團體以上にブルヂョアジイの御機嫌を得るからだ。

×

　以上の如く分裂して合同以前の政黨に立還るわけではあるが、いづれも滿身創痍を受けて、鬪爭の氣力を有するものは無い。

　これは甚だ喜ぶべき事である。七黨合同が、××主義に對抗する中間派社會民主主義として結成され、反動的役割を果さんとしたが、清黨同盟によつてぶちこはされ、×××××の大衆の支持は急速に高まつた。

　清黨運動はかゝる意味において階級的運動であつた。即ち、日本大衆黨の本質をはつきり全大衆の前に示した。平野、麻生は云はずもがな隔斷左翼の本質まで、赤裸々に認識させたではないか。

　反幹部運動からマルキシズムへの清黨運動の飛躍は、平野、麻生の對立より、同時に一時的に味方とした(反幹部運動の一味として)勞農派との對立へと高揚するに從つて、清黨同盟なる社會民主主義的組織は解消の過程に入つた。今や、日本大衆黨の分裂を契機として解消は急速に遂行されつゝある。また、いつまでもそうあつてはならぬ。

×

　勞農一派は云ふ、清黨運動が戰線統一を忘れさせた。吾々は(勞農派の事)更に戰線統一へ向つて進まねばならないと。

　われわれも、戰線統一を要望する事、敢て勞農派の諸君にヒケは取らない。しかし、われ等の統一論と、彼等の統一主義は根本的に相違してゐる。即ち、彼等のそれは、×に對立する社會民主主義黨の統一であり、われ等のそれは社會民主主義黨を粉碎する事によつて、勞働者の只一つの×××××を強化擴大の爲めの統一である。

　青年運動に就ても同様である。彼等は××青年同盟と、大衆青年同盟を別々に持つべしと云ふ。×青年同盟に對立する反動的青年戰線統一を叫ぶ。われ〱は彼等と全然異なる。われ〱は、勞農青年同盟を結成したが、創立六ケ月にして、かゝる社會民主々義青年同盟を固守する事の階級的な誤謬である事を知つて、××青年同盟の強化擴大の爲めに、自らの組織の解消を鬪爭しつゝある。そして、戰鬪的自主的組合青年部の確立のスローガンを前面に押出してゐる、勞農派の青年分子は、あくまで勞農青年同盟を守らうとして其の反動的行動を爲しつゝある、

　彼等は大衆團體の統一は×××を強める、唯一の方法であると云ふ。そうだ。勞働組合、農民組合等の統一こそ戰鬪的統一である限り、それは正しい事である。だが彼等の大衆團體は社會民主々義黨である。元來、社會民主々義は××主義と根本的に對立するものである以上、社會民主々義の戰線統一は×××をぶちこはす支配階級の手先の役割を果はす以外の何者でもない。

　彼等は、日本大衆黨の階級性を守る事は、×××の強化擴大の前提であるといふ。ふざけてはいけない。日本大衆黨は前衛の投獄を喜んだ黨ではないか。よし、日本大衆黨の階級性を守る事が×××の強化擴大の前提であるとしても勞農派のフラフラ××主義者諸君では甚だ心細い話ではないか。當に孤立して、失敗續きであつても共産主義者だと力み返つてゐるところ甚だ御愛嬌である。

　最近、日本大衆黨の本部がこの自稱左翼を追出して了つたので、××主義を排斥するから、大衆黨は共同戰線黨でなくなつた。だから、おれ達は大衆黨を排撃すると云ひ出した。大衆黨が共同戰線黨になれば支持するといふ論法である。所謂、共同戰線黨とは、××主義と社會民主々義の寄合世帶といふ事であるらしい。腐れ果てた解黨派、昔日の山川、猪俣いづくにありや。

　支離滅裂の勞農派、甚だ振はないのも理由がある。

×

　かゝる支配階級の御意のまゝ動く分派のガチャ騒ぎの中に日本大衆黨の分裂は生れ、見ぬに堪へぬ珍現象、醜光景を展開した。

　われわれは、左右の社會民主々義の正體暴露のため戰はねばならぬ。

　戰鬪的政治戰線の統一へ!

　日本大衆黨崩壊萬歳

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

日本大衆黨の崩壊

勞働者農民販賣業者麻生久一派は何處へ行く

吉田源藏

(一)

日本大衆黨がとう〳〵崩壊して仕舞つた。今更別段にそれを兎や角と問題にするのも、おかしなことで、それは當然に壞れるものが壞れたゞけの話で、言はゞ一升入りの壜から一升出したら空になつたとて、何の問題にもならないように、今年うまれた子供が、來年二つになるとて大騒ぎをやる以上に馬鹿氣きつたことではある。

だがしかし、壞れたるものとしておけば勿論問題にはなり得ないが、こわれたるものがこわれたるものでないといふことになれば、充分に問題になることもあり得るのである。それでは、日本大衆黨といふボロクソ黨の崩壊の、何の點が問題になり得るかそれは、こわれて仕舞つた筈の日本大衆黨の幹部と稱する人間の言ふところを聞いて見やう。

『……撹亂者は處分したし、去るものは去れ!吾黨は微動だもしない……』と。

では、その一體微動だもしない『吾黨』とは何であらうか?、それこそ實に、曾て『×旗』問題を惹起して、無産政黨を反動化しやうと企てた、無産階級の陣營に派遣された、帝國主義者の走狗、麻生久と、その奴を繞る乾分方から成る舊日勞黨の一團ではないか。しかも今日では往年の舊日勞黨ではない。往年の舊日勞黨は、多かれ少かれ、階級的戰闘的な勞働者農民を擁して居つたが、最早今日では、勞働政治ボス麻生久によつて飼はれてゐるところの一團、即ち麻生久なる人間一個人の爲めに進退するところの私黨である。

從つて、麻生久の私黨であるところの『吾黨』である限り、これは確に『微動』だもしなかつたであらう。否!微動だもしなかつたのでなく、微動だも出來得なかつたのだ。それは事實が證明してゐる。

(二)

彼等は——無産階級の陣營に派遣せられた帝國主義者の使者麻生久とその一統(註)——曾て『無産階級運動の正道確立』を叫んだ、それのみならず彼等は『戰線の統一』を自らの一手專賣の如く吹聽した。そしてそれ等の遂行を大衆の前に約束した。だがそれ等の約束をした彼等は一體何をしたか?何もしてゐないではないか、彼等は只『何もしなかつた』と云ふ消極的、不作爲的態度で止まつてはゐなかつた。彼等は『正道確立』『戰線統一』の大衆への公約を裏切る爲めには積極的行爲を以てした。私は今彼等が、大衆の前に公約した『正道確立』『戰線統一』に對して『何もしなかつた』と云つたし、そして、その公約を裏切ることさへやつたと云つた。だが彼等は言ふであらう、そして現に言つてゐる。しかも仰々しく鳴りもの入りで御吹聽に及んでゐる彼等の廣告文に曰く。

『正道確立の爲めには日勞黨を作つたし、戰線統一の爲めには、日農と全日との合同をやり、七黨合同を完成した』と。

アハ……笑はせるない!日勞黨を作つたことが正道確立なら、社會民衆黨を作つたことも正道確立だし、平野が日農黨を作つたことも正道確立になる筈ではないか。吾々は社民の右傾化に反對するが爲めに、舊勞農黨の極左化の傾向に反對したのであつた。それ故に『正道確立』の彼等の政策に吊り込まれて、舊日勞黨に參加したのであつた。だが彼等の『正道確立』從つて『戰線の統一』も、吾々の考へてゐるやうな階級的戰闘的な意義を持つものではなかつた。彼等の唱へるところの戰線統一に關しては、私は本誌第七年第二號に於て、その正體を曝露しておいたが、それは實に彼等自身の社會的存在條件を作る爲め以外の何ものもないものであつた。

(註) 麻生久、山名義鶴、三宅正一、河野密、田所輝明、藤岡文六、石山寅吉、棚橋小虎、淺沼稻次郎、阪本勝、森脇甚一、安藝盛、加藤勘十、阪本孝三郎その他有象無象の勞働ブローカ農民ボスの一味徒黨を稱して麻生一派と云ふ。本稿で彼等とはこれ等の帝國主義者の走狗たる、勞働者農民販賣業者全體を總稱するのである。

(三)

彼等は日勞黨結成當時 は 自ら『正統左翼』を以て任じてゐた、が、それは、大衆を誤魔化す爲めであつた。麻生久や河野密は何と言つたか?彼等の立場——正統左翼の立場——は何處にあつたか?奴等の言ひ分を聞いてやらう。

『右翼に對しては、極右翼主義で對抗し、左翼に對しては極左翼主義で對抗して吾々の立場を明かにする』と。

これが奴等の立場——自稱正統左翼の立場——なのだ。此の自稱正統左翼の立場については、昨年十二月七黨合同を前にして、吾々は、組合同盟のお歷々——麻生一派——から耳に蛸が出來る程聞かされ、口說かれたものである。それは七黨合同に左翼を入れることを反對させるためにであつたのだ。

右か左か中間はない!若し中間

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

と名の付くものがあれば、それは或は右を往き、或は左を歩くところの、何れかに寄生するもので獨立の存在地位のないものであらねばならぬ。松谷與二郎の如く、『吾々中間派……』と勇敢にその寄生樣式を白狀するなら、未だ正直なところに取り柄もあるが、『正統左翼』を自稱するに至つては實に沙汰の限りである。彼等は農民組合の合同はやつたが、それを如何にしてやつたか、彼等は支配階級の魔手が日頃の目ぼしい指導者や鬪士の拉致された頃合を見計つて、合同したのではなかつたか。しかも彼等は、彼等の非階級的正體を暴露することを少しも躊躇しないところの、彼等にとつては甚だ手強い分子の敵の手に拉致された留守中に合同をやつて、火事泥を稼がうとしたが、遂に一ヶ年後の全國大會には全く葬れるに至つた。しかしながら、はらわた迄腐つた彼等反動主義者は、崩れた自己の陣營を盛返す可く、今又四、一六事件を好機會として、農民組合の反動化を策しつゝある。しかしながら左翼の指導勢力の充分に滲透してゐる全農内に於ては彼等の策動を許さないであらう。

（四）

七黨合同に際しても、彼等は權力大衆の要求を抑へ付けた、合同大會には一切の言論が封鎖された。それは大衆が、彼等の『可能なる範圍の合同』から遙に勝れた要求を持つてゐたからである、大衆は彼等の『可能なる範圍の合同』に斷乎として反對をしてゐた、それは全戰線の統一を要求していたのであつた。

かくて彼等は、極度に大衆を押へ付けながらも、口に統一を叫んで七黨合同をやつた、だが、しかし、その瞬間から彼等は大衆に見放なされるに至つた、反動政府との密通事件が暴露せられたからである、兼ねて麻生久によつて飼はれてゐた乾分共は、スハこそ御家の大事出來とて『分裂主義反對』なる一枚看板を押し立てゝ、自己の親分の蔽護に盜をし始めたのだが彼等の『分裂反對』が分裂の危機を孕むところの要素の保存である限り、分裂發成と少しも變らぬ結果を招來した。

それは實に、かの帝國主義者が世界の平和の爲めに『不戰』を口にしながらその實『不戰』それ自體で戰爭發成の結果に終るように彼等の分裂の反對は、分裂の種を保存することであつたが故に遂に日本大衆黨は合同以前に全く還元して仕舞つた、そして日本大衆黨から戰鬪的分子を引き去つたところの、麻生久一味によつて、やうやく支へられつゝある麻生久の私黨である。

除名、脫退、等々の混亂無秩序狀態が一應すんで、もとの木阿彌になつた親日勞黨の連中を招いて親分麻生久の曰く『氣の合つた同志でこれからやつて行かう！』と

彼等の節操何處に階級戰士の影があるか？その云ふところ、不義をして出奔するところの道行者と何所に選ぶところがあるか？

（五）

麻生久一味の阪本孝三郎は、青年同盟を仇敵と云ひ、阪本孝三郎の膝下の腐敗政治は『青年同盟と血を流しても戰ふ』と言つた。彼等は黨内に於ける左翼化の傾向を極度に恐れる。最近著るしく進出した我が國の左翼は、多くの誤りを犯した極左傾向を克服して、正しき指導勢力を全般に普及し始めた。その正しき指導勢力の影響を第一に受けたものに『全國勞農青年同盟』がある。今や全國勞農青年同盟はその結成の歷史的過程からして持つてゐるところの、社會民主々義的要素の淸算過程にある。從つて、日本大衆黨の領袖共が之を恐れるのは當然である。

彼等は彼等の黨に『治安維持法撤廢』『無産階級抑壓諸法令の撤廢』等の政策主張を掲げてはゐるが、常に『共産主義反對』『共産×反對』なる意思表示を爲して、官憲筋の御機嫌を伺ひ、事實上に於て治安維持法の撤廢に反對し、特高警察網に賛成の意を表するものである。何故かなれば治安維持法も特高警察網も共産主義運動―國の無産階級運動―の撲滅を目的としてゐるからである。例へ政策主張に如何なる階級的項目を掲げようとも、共産主義に反對し、×××に對立する限り、それは斷じて無産階級に役立つものではなく。從つて、それは帝國主義者の番犬以外の何ものでもないのである。

共産主義反對なる旗を掲げる限り、彼等の唱へる戰線統一も、正道確立も、凡て、ブルジョアジーの利益を少しも傷けないところの『可能なる範圍』に於てなされるものであらう。

田中反動内閣は×××を撲滅せんと努力してゐる。しかも彼等は『國民の生活安定』を口にする、その國民の生活安定とは、大多數の國民プロレタリアート——の生活の不安定を條件とするところの極めて少數の國民——ブルジョアジー——の豪壯なる生活の安定である。從つて眞に國民の生活安定の政策を遂行せんとするものは、先づ以て、『國民の生活安定』を唱へてゐるものゝ打倒から始めねばならぬ。

世界の帝國主義者は、口を揃へて、軍縮を唱へ、不戰を誓つている。しかしながら、眞實に戰爭に反對するものにとつては、その軍縮論者、不戰論者自體が正面の敵であらねばならぬ。それは彼等こそ戰爭なくては立ち行かぬ帝國主義者であるからだ。

『戰線の統一』を口にしてゐる日本大衆黨と稱する、親日勞黨の麻生一派こそ、戰線の分裂狀態の維持なしには立ち行けない徒輩である。七黨の合同によつてさへ彼等の立場は保證せられないのであつた。しかしながら、彼等は今や落日の孤城に陣取つて、再び繰返された分裂狀態の下に、わずかに支へ得たところの、さゝやかなる自己の地位を死守せんことにこれつとめている。

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

（六）

『去るものは去れ、吾々は微動でもしない』とて、大見得は切つては見たが、そして彼等は、自己の地位を危くする、左翼社會民主々義者に對しては、『……×××も作らぬ癖に……』と左翼罵りの言辭を以て難付きはしてゐるが、自らは『×××反對、××主義反對』の旗を高く揭げて居る關係上そして實際彼等は左翼の傘下には走り得たいし、彼等の落ち付くところは只一つの道が拓けてゐるのみである。

では彼等に拓かれてゐる道とは何か？それは麻生や河野が言つてゐる『右翼に對しては極右主義で對抗し……』これである。これは何を意味するか、反動化以外の何ものでもないのである。彼等は最近『全農有志』の名に於て聲明書を發してゐるが、從來彼等の決議や聲明書の公式となつてゐた、左右の分裂主義と鬪ふから、左翼分裂主義が何時の間にか取り除かれ『右翼分裂主義』だけに鬪爭することになつてゐる。

麻生久に師ゐれてゐる此の『全農有志』なるダラ幹一味の聲明書こそ、實に彼等の行く先を指し示してゐるものである、彼等は今後は只々『極右主義』即ち反動主義、所謂『×旗』を擔いで、右翼と縫い、ブルジョアジーの御用を一手に引受けようとするのである。

兵庫縣下における日本紡織勞働組合の協調主義的發會式、東京北部勞働組合や、東京金屬産業組合等に對する組合同盟本部の彈壓や青年同盟に對する『血を流して鬪ふ』ところの彼等の最近の方針は彼等が當然に落ちゆく道筋への第一步であり、それは彼等の反動化のための鬪爭の小手調である。

今や世界の無產階級は、社會民主々義者との用捨なき鬪爭の中にのみ、その歷史的使命の遂行を期し得るのであるが、日本の無產階級も、その歷史的使命を遂行する爲めの社會民主々義者との鬪爭は麻生久一派からなる反動主義者との鬪爭を他所にしては無意義である。

獅子身中の蟲とは實に彼等の事である。

反動主義者麻生一派を打倒せよ！

社會民主々義者を葬れ！

プロレタリアートの×を强大化せよ！

日本大衆黨の分裂に對する我が同盟の態度（全國勞農青年同盟）

日本大衆黨を階級的統一黨だ、と社會民主々義者共がほざいて居た、だがそれが四分五裂してその非階級性を餘すところなく曝露した。

日本大衆黨の分裂は何もぎようぎようしく騷ぐに足らない、然も最初から豫定されて居た日和見主義政治家共の離合集散の一場面に過ぎない。

勞働者、農民大衆は面白くもない、社會民主々義者の『合同――分裂』劇にはそれこそあきあきして居るのだ、そして資本の攻勢と白色テロルに鬪爭するための戰線統一はプロレタリアの×に指導されたる××的統一のみが勞働者農民の戰線統一であることがわかつたのだ。

また日本大衆黨は共同戰線黨だとぬかした勞農一派の紳士共は共同戰線黨とは階級を異にした勞働者農民無產市民が一つに（一つと云ふ）結成された政黨だと云ふのだ、これは勞働者の階級的獨自性をゆがめ、實踐に於いてプロレタリアヘゲモニーを否定する社會民主々義の本質を曝露したものである、また勞農一派にはこう云ふ馬鹿を云ふキ印も居る。

協同戰線黨とは×××と社會民主々義黨とを結合する即ち前衞と大衆との連鎖黨である、と實にこれでは問題の外だ、だが日本大衆黨を貫らぬいて一般に普及されて居る社會民主々義の精神は日本大衆黨は『大衆政黨（前衞黨と云ふ名に對する）』であると云ふ思想である。

然し乍ら何故に大衆政黨と云ふものが必要なのか、この問を押し詰めて行くならば大衆獲得に於ける社會民主々義の欺瞞的精神が白日にさらけ出される。勞働者農民が階級鬪爭に勝利するために必要なのは社會民主々義的大衆政黨ではない。

それは勞働者農民にとつて××を遂行し××を××するために必要なる唯一の政黨即ち×××の大衆化のみが切實な問題となつたのである、この階級的立場よりして日本大衆黨は分裂はおろか死滅に導びかなければならない、ブルヂョア政治の御用機關である。

何故なら此の切迫せる階級鬪爭に面して社會民主々義の精神とする改良主義は不可能であるばかりでなく勞働者農民を欺くものとなるからである、社會民主々義は今やその左右を問はず勞働者農民の敵である。

それは帝國主義ブルヂョアの搾取を執行する有能な代理人である。

我が同盟の日大大衆黨分裂に對する態度は以上の見地に立つ、まだ立たねばならぬ。

然しながら我が同盟は分裂騷動の外に居るのではなく中に居るのである、また我が同盟の再組織の鬪爭も敵（日本大衆黨）の陣地に於いてなされるのである、こゝに戰術の多樣性はまぬがれぬものとなり二重の困難に戰はねばならぬことは云ふまでもない。

但しそれは次の如く規定され得る。

一、何よりも先づ日本大衆黨は社會民主々義の黨（改良主義の選擧黨）であり其故勞働者農民の大衆的××化を抑壓する反動的ブルヂョアの代理執行者であることを明らかにし、勞働者農民が勝利のために大衆化されねばならないのは×××のみであることをハッキリしておくこと。

二、日本大衆黨に對しては唯破壞の鬪爭あるのみ、そのためにダラ幹放逐の鬪爭を大衆の××化の鬪爭に結びつけること、此の鬪爭はわが同盟に於ては社會民主々義者との鬪爭の主要なるものであること。

三、何れの場合でも鬪爭は一切下から。

あのダラ幹をやつゝけるために政策的？に此のダラ幹を利用すると云ふやりかたは絕對にいけない

四、再組織鬪爭の主要鬪爭として敵の陣地にあつて敵（ダラ幹）と鬪爭するためには嚴格なる規律の下に行はれなかつたならば失敗するであらう。

獨斷と規律を離れた運動は敵と敵のスパイに協力する結果となる。

我が同盟の成員は以上の要點を頭にタヽき込み敵に知られざる仕組みと大衆の中を縱橫する活動を以て日本大衆黨に對する鬪爭を遂行しなければならない。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

特別讀物

社會主義運動思出話（其十二）

―第七齣―監獄ばなし―

岡野辰之介

監獄の話を一齣やる。餘り世間に知られぬ所だから、強ち興味のないことはあるまい。尤も監房の生活は堺利彦の樂天囚人に委曲を盡してあるから、僕は少しばかり工場の有樣を書く。それも今から丁度二十六年前の話だから、或は工場の有樣も變つてるだらう。殊に巣鴨は近々他へ移るさうで、書いて見ても張合はないが、然し大した進歩をする筈はないから、之れを讀んで今日の夫れを推察する便りにはならう。

監獄の工場は長方形の建物を四ッに仕切つたものである。他は知らぬが、巣鴨監獄はそうであつた。全體の奥行は十二間位で幅は六間位だつたと思ふ。夫れに眞ん中から左右に抜ける二間幅の通路が出來て居る、其の左右の建物を倚二ッ宛に仕切つてあつた。六間に十二間の建物を、中央に二間取つて四ッ目に切つたものと思へばよい。だから其の一ッ〳〵の室は五間に三間となる。こうした建物が五間位づゝ間隔を置いて都合五ッ並んで居た。向つて一番左が第一工場、それから順次に五工場までゝあつた。工場と工場との間は畑に成つて居たやうに思ふ。或は何も作つて居なかつたかも知れぬ。又一ッの工場を四部に分けて呼んで居た。即ち向つて手前の方の左側が南部右側が東部、中央の通路を越えた左側が西部、右側が北部となつて居た。工場の天井即ち屋根裏は、下から階段が出來て居て、上がつたり下つたり出來た。そして何の工場でも此の屋根裏を脱衣場にして置いたのである。脱衣場といふのは工場で着る仕事着と、監房で着る長着と着替へる所である。監房では筒袖の長着を着て居るが、工場では矢張り筒袖の尻までしかないもので、下には股引を穿く。こう書けば簡單だが別世界だけに、着換えるまでには仲々容易ではないのだ。

朝監房から外に出て四列縦隊といふやうな具合に整列すると書きたいが、實はシャガムのである。立つのは歩くとき丈け、拵んな出揃うと役人が、

『立て！』『カめ！』

と號令する。四列で歩き出し、何れも自分々々の工場の正面から、一列になつて這入る。ドアを開けると階段があつて、直ぐ二階イヤ屋根裏に上がれる。屋根裏には澤山木の釘を打つた幾列かの著物懸けが出來て居て、各々自分の仕事着が懸つてる。其所へ行くまでには今迄着て居た長着を脱いて懸けて置く所がある。長着を其所へかけ階段に成つて、仕事着のある所へ行くのだが、其の途中に關所が一つある。其所は一人づゝしか通れぬやうに成つて居て、一人か二人役人が見張つて居る。

僕が這入つた當時は、役人の前で口を大きく開き目をムキ兩手を左右に擴げ、兩足をハダケ、何處にも何も隱してはない事を見て貰ひ、夫れから擣木を跨いで越へるのであつた。而も尻の穴を役人の方に向けて、其處にも何も無い事を見て貰ふのであつたが、間もなく此のブザマな所作は止めに成つて、兩手を擧して前をかくして通る事に成つた。前から一二寸の所へ兩手を擧げて置くので、所謂ニギリキンタマをするのではない）夫れから自分の仕事着のある所へ行つて着る。仕事着にも長着にも自分の番號が縫つけてあるから、間違ふことは出來ない。そして夏は上下單、春秋は袷、冬は上下に綿が這入るのである。そして上には下着まで添ふ。

着更へが濟むと順々に、入口とは全く反對の側にある階段を下つて、南部に行くもの、東部に行くもの、順次に自分の席に着くのである。勿論其の途中には幾人も看守が居る。冬の朝、霜焼けが出來ない爲めにと、昨夜汲んで置いた凍つた水で、兩手を洗はせられると、彼等はホントにナサケない樣な顏をした。かうして自分の席に着いて居ると、食事が配給せられる。食事は炊事場でこしらへて、トロッコに積んで各工場の中央に置いて行く。夫れを各部の當番が出て、みんなの前に配るのである。中央には各工場をトンネルのやうに、潜つて抜ける軌道が敷かれてあつた。

工場の役人は東南兩方を擔當する擔當看守、一部を受け持つ受持看守、之れ等に代つて休憩させる助務等が居た。朝晩には他の部署に就くものも來て手傳ふから、可成り多くの役人が集まる譯である。この役人即ち看守を囚人は、或は『ゴ看守サン』と呼ぶものもあり、或は『旦那』と呼ぶものもある。中には御丁寧に『ゴ看守の旦那サン』と呼ぶ者さへあつた。かくいふ僕はその頃此の『ゴ看守サン』の一人だつた。

二、社會主義のたぼ止工

その頃の第一工場南部には、質の善い囚人ばかり置いてあつた。多くは行燈作りであつたが、一部分は髱止めを作つて居た。髱止め工の居た所は板敷になつて居て、其處に蓙が敷いてあり、其の上に金敷工を置いて、針金を其の上に載せ金槌でカーン、カン、カン、カンと叩いて平たくし、折り曲げて火にかけ、黑く光りを出すのである其の一人にチョット見ては二十一二位にしか見えない、色の小さい白面の美少年が居た。鼻のバカに大きい、眼の細い、口の小さい可愛らしい男であつた。眼鏡を掛けて

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一生懸命針金を叩いて居る。非力らしかつた。看守の僕は其の男を呼びに行つたのである。

『千二百三十四番！』（之れは出鱈目）

『ハイ！』と金槌を置いてかしこまり、細い底光りのする眼で僕を見上げた。

『典獄殿の御呼び出しだ。作業の道具一切片附けて來い』

威嚴ある音聲にてかく申渡した。

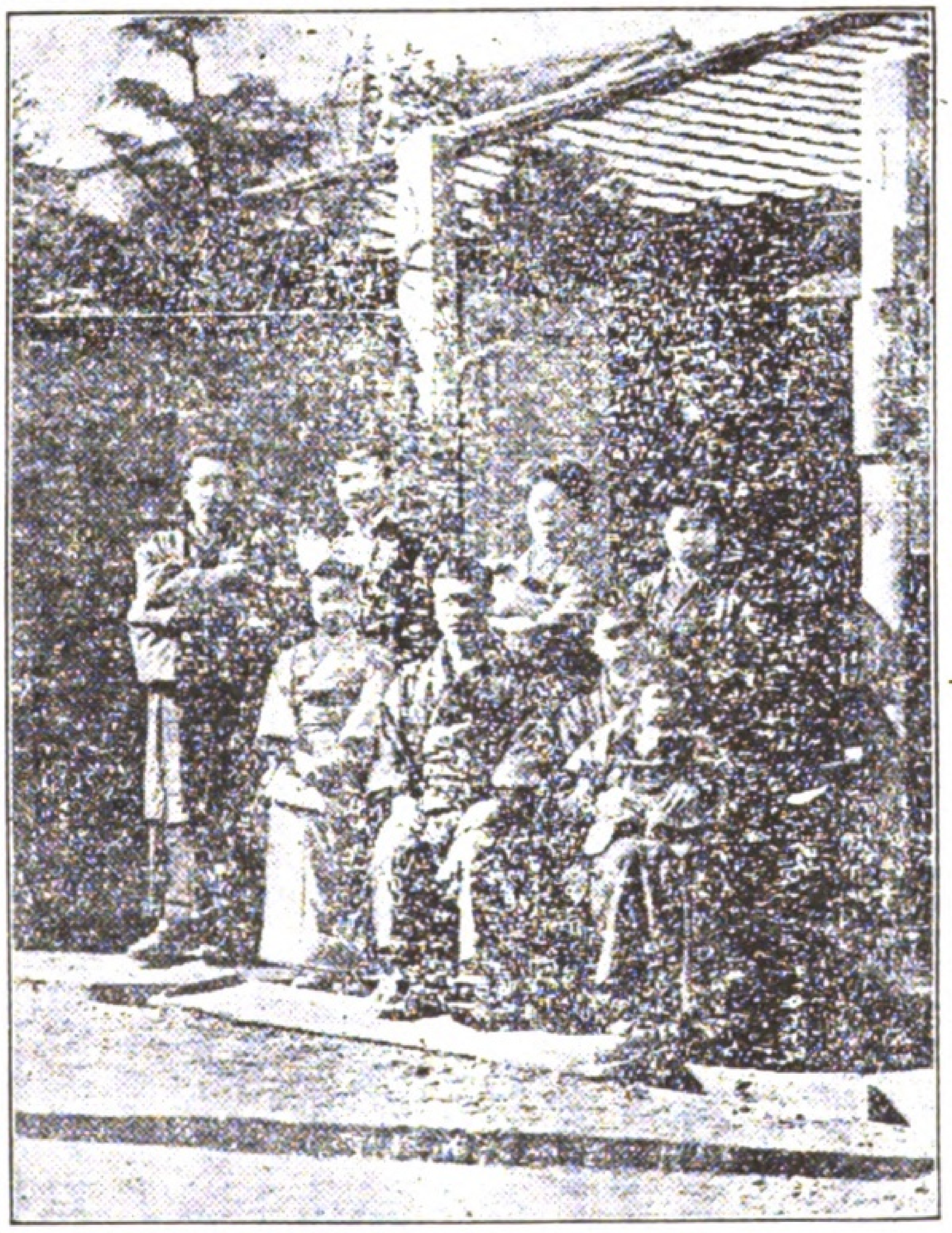
彼はアタフタ其處らに散らばつてる金槌だの、鋏だの、髪止の出來たのだの、片附けて立ち上がつた。そして二人で屋根裏に上がつて、着物を着換へさせ、接見所（上の役人が囚人に何か申渡したり、囚人の訴えを聽いたりする所）に連れて行つた。

すると間もなく典獄殿が來て、彼れに假出獄の申渡しをした。名前は何んとかいふ日刊平民に這入るまで知らなかつた。罪名は不敬罪と丈けは分つてゐた。

× × ×

此の男こそ誰れあらう、ボル論客の巨擘山川均だつたのである。彼れは明治三十二三年の頃、有秋守田文治と共に『青年の福音』と題する雜誌を出した。出したといふと恐く讀いたやうに聞へるが、何んでも第二號で高貴の方の御婚約があつたのを、戀愛は自由でなければならぬといふ立場から、痛烈に攻撃してブチ込まれたのであつた守田は未丁年の故で一等を減ぜられ、彼れより先に出獄して居た。彼は守田より二ッ年上でモウ丁年に成つて居たから減刑がなかつたのである。然し『よく獄則を守り、勞役に精勵し、他囚の模範たるに耻ず』とあつて、特に假出獄を許されたのである。そして半年ばかり早く娑婆の風に當る事が出來たのである。蛇足を添へるならば、假出獄は幾つかの褒章を持つて居なければならないのであるが、彼は二ッか持つて居た。そして刑期の三分の二を過ぎて居なければならないのである。若し其の刑期がマダ殘つて居るのに、何かやると直に假出獄を取消される。彼れが第二回に這入つたのは屋上演說事件で、モウ期限が切れて居た。之れを取消された者は僕の知つてる人では、野依秀一丈けである。

山川と守田とは實に近世社會運動起つて皮切りの入獄者である、車界黨事件だの、日本鐵道の同盟罷工イヤ爆破事件だのといふ、近世社會運動の前紀ともいふべきものは別だ。



說明　創業當時の賣文社

三、樂天囚人の囚人振り

僕が巣鴨監獄に這入つたのは明治三十七年二月十二日であつた。監獄へ這入るまでの僕は苦學生であつた。車を挽いたり何かして、英語をやつたり、數學をやつたり、地理歷史をやつたり、アレをやつたり之れをやつたりした。そして新聞は萬朝を愛讀して居たから、堺、幸德、內村の三人が非戰論を唱へたことも、黑岩が主戰論に成つて三人が出たことも、堺、幸德等が週刊平民新聞を起したことも知つて居た。

或時市ケ谷監獄から囚人を護送して來た二人の看守が、模範監獄といはるゝ巣鴨の中を見たいといふので、新米の僕が案內役を仰付かつた。そこで二人を引つ張つて南監から北監と廻り、北監の第一監に差掛つた。南監も北監も同じであるが、丁度楓の葉のやうに、五ッの長い赤煉瓦の[illegible]が、中央といふ所で一ッに喰ついて居り、其の長い葉の一つを一監二監といふのである。其の一監の眞ン中を二間幅の廊下——といふよりはプラットホームだ——が通つて居り、其の兩側に片々十五位づゝ八疊から十二疊位の房がある。其のドアは鐵の厚い恐ろしいものである。僕も初めは世の中に仕事もあらうに、ナンデ此んな處へ來たらうかと、幾度逃げ出そうとしたか知れない。然し囚人附はホンの少しの間で後には事務看守を命ぜられたので、トウ／＼二年餘も居てしまつた譯である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

市ケ谷からの御客人を案內して、第一監の眞ン中頃に差かゝると、誰だか新入りがある、そこで名札（之れは板で蔽はれて居て、それを上げると在房者の名前から、罪名犯數までも書いた名札が見えるやうに成つて居る）を見ると驚いた堺利彥とある。

「ア、堺先生だ！」

と呼んだ。そして自ら氣附いた。苟くも官吏であり、御看守樣である身が、囚人に對して先生呼ばゝりはチト面白くないと。テレ隱しに何か一ツ二ツ云つて他の方へ二人を引ッ張つて行つた。それから後は是非一度先生と話しがして見たくてたまらない。何んとかして話しをして見やうと思つても、時々御手傳ひに行くばかりで、囚人附に成れないので其の機會がなかつつた。一度入浴に行くのを戒護するの光榮に浴したが、外にも同僚が居るし、上役の部長なども來て居るので、幅の廣い肩と芋蟲のやうに切り端かな身體に、着物と同じ色の帶を後に才槌に結んだ先生の「樂天囚人」振りに見入るばかりであつた。

先生の住居——其の時の監房は第七監といふ木造のもので、震災前の警察の留置場のやうな格子と出入口があり、五寸角位の柱が格子で圍まれた所である。誰れだかの武勇傳に、太い角材を小脇に掻い込み、髮を振り亂して格子戶を破つて出て來る、牢破りの所があつた。丁度ア丶した監房だつた。此の七監には大杉も居たし、石川も居たし、社會黨とは因緣淺からざるものであつたが、二三年後には取り壞されてしまつた十監にも三四房あつて、房と房との仕切りは厚い板であつた。僕の願は叶つて一度其處の助務に成つた事がある。この時こそと夜に成つてから、話しかけたのであるが、夜は何處に上役が聞いて居るか分らないので、成る丈け靜かに聲を出そうとしても、夫れが馬鹿にデッカイので氣が置けるのであつた。

「千九百號！」（之れは本當に彼の番號）

「ハイ」

「其の方は木下尙江といふ者を知つてるか？」

「ハイ、知つて居ります」

「吾輩は昨夜神田の靑年會館にメーデイの演說會を聞きに行つて來た……」

「ヘ、そうでしたか、昨夜メーデーの演說會がありましたか。アレは皆私共の仲間です」

テナ會話を取り換はした。夫れも他の囚人が聽いてゐるので、成るべく威嚴をつけて…………

愚按ずるに、此時の演說會が日本最初のメーデーだつたらう、それは明治三十七年の五月三日と記憶する、堺が監獄に入つたのは三十七年二月二十六日で、刑期三月であつたから、五月二十六日前には出られるのである、さればモウ放免近い時であつた。

僕は其前後感激の餘り一文を草して平民新聞に投書した、中頃を少し略せられたゞけで、僕の書いた通りが載つた、何度か推敲したのでよかつたのだらう、僕の投書が載つたものだが、その前から毎號平民社から送つて寄越した平民新聞は、各課の看守休憩所に、讀むに任せて放つたらかしてあつたものだ、時の典獄名を山上義雄といひ監獄改良にも一隻眼を有し、新思想にも敬意を拂つてゐたことは、いろいろ首肯せられる點がある、その後彼は三池監獄に轉ぜられて、兩三年にして逝いた、左遷だつたらうよ、僕も此の人には少からず眼をかけて戴いたもの。

四、看守に成つた譯

鳥も木を選んでとまるとか何んとかいふ古事がある。木を選ぶべしだ。僕東都に在ること三十年、此の長い間で看守をやつたのは二年と少しだが、何時に成つても看守上がりといはれる。看守をしたことが惡いとも思はないし、勿論善いとは思はないが事情巳むを得なかつたのである。僕は東京に來て知己も親類もなかつた。人力車を挽いて勉强して健康を損じ、國に歸つて靜養すること數ケ月、再び上京したけれども、モウ恐ろしくて勞働が出來なくなつた。といふて仕事の世話をして吳れる人はないし、巡査に成らうかとも考へたが人に面を見られるのがイヤでよした。遠大の志を抱いて居るんだから、尺蠖の屈で、何んだつて食ふことが出來ればよと、新聞に募集廣告があつたのを見、之れなら人に顏を見られないと、ご看守さんに成つたのである。

所が二三ケ月すると兩親が、當時月給九圓のセガレを手賴つて上京する。妹も一所にやつて來る。其の年の十二月には僕が補充兵として召集される。休職給があるので兩親を東京に置いて、佐倉の兵營に出發する。實に悲慘なものであつた。然し兵營の門を潛つた丈けで、補充兵役に堪へずといふ證明が出て、今尙ほ生きて居るモシ彼の時出たら乃木將軍の爲めに二龍山下か何處かで、敵の的にしてしまはれたにキマつてる。

僕は監獄に居たから社會主義者に成り得たので、監獄は僕と社會主義との結びの神樣だつたのであるから、決して監獄生活を呪咀することは出來ない。唯一ツ、僅か二年ばかりの監獄生活が、僕の容貌をヘンなものにしたことは、爭はれないことであり又有難くないことであつた。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

コミンテルン第六回世界會議の歷史的成果

ブハーリン

伊藤銳太郎譯

（一九二八年十二月五日、ソビエット聯邦×××モスコー部會の黨活動部における演說である）。

第一章

第六回會議の一般的特質とその仕事

同志諸君！少し前に閉會した會議は、××主義運動の歷史において疑ひもなく意義ある會議の一として顯示されるであらう。會議に上程された問題は次の五點に在る、一、國際狀態とコミンテルンの任務、二、戰爭危機に對する鬪爭のための方策、三、コミンテルンの綱領、四、植民地問題、五、ソビエット聯邦とソビエット聯邦共產黨との地位、そして、さまで重要でなかつた問題は、種々なる、一度除外されたグループをコミンテルンへ復歸せしめること、新黨を吸收することを提議する問題等であつた、會議の仕事には約五〇〇人の同志が協力した、既に會議の組成がその國のインタアナショナル、國の××的性質を反映してゐたことは、興味あることである、若し吾々にして、第二インタアナショナルをその最も盛行せる時代（一九二七年八月十八日から廿四日までのスツツトガルト會議時代）において考へ、且つ、その當時の組織を第六回コミンテルン會議と比較して見れば、次のやうな表をうるであらう。

	代表者總數	非歐洲國代表（絕對數において）	（パーセントにおいて）	從屬國及び植民地代表（絕對數において）	（パーセントにおいて）
スツツトガルト	八八四	二八	三	五	〇・五
モスコー	五一五	一〇〇	二〇	七四	一四・四

モスコー會議での『非歐洲的』要素のパーセント率は、だから、スツツトガルトの當該パーセント率よりも六倍も大きく、モスコーにおける植民地及び從屬國家の代表者のパーセント率はスツツトガルト會議の當該數よりも二十八倍も大きい。最近の第二インタアナショナルのブラッセル會議中、一組の旅客を算へずに云ふならば、植民地問題についての會議の『仕事』に關するその慨歎が尖銳なる樣式において表現されてゐるにも拘はらず、植民地代表等は全くゼロであるといつてよい位だ。

會議の仕事は比較的長くかゝつた。ウイーンの『勞働者新聞』は、之に關し、國際的ポリスと帝國主義的外交の欺瞞的假裝者とに對して密告してゐる。同新聞第二四八號の『コムニストの世界會議』なる論文において、吾人は次の如き興味を發見する。

『コムニスト・インタアナショナルの會議はモスコーで丸六週間を費した。大國家の中心で行はれた會議として、かゝる長期に亘る數百の代表者が出席した所の會議は餘りに時間の浪費をやり過ぎてゐる』

あらゆる答へが、かゝる『南京蟲の醜傷』の上で、かゝる『文書的還映え』の上で爲されてゐるのだ。

事態の本質はコウだ。會議の前に橫たはつてゐる任務は非常に複雜してゐる且つ、短時日で片づけられない程、しかく巨大なものであると云ふことだ。恐らくこれ程廣汎な內的仕事を行つた――あらゆる問題が眞にコレクチーヴな討議を行はれたと云ふ意味において廣汎である――會議はないであらう。此のことは二三論證するだけで充分分ることである上程問題の最初の部分（國際狀態とコミンテルンの任務）について報告するだけで九十人以上の說明者が語つた綱領問題は、更に、今日まで吾々の會議に於ける問題にも見られない程、しかし嚴格に設定された。綱領に關する大討論が、所謂大綱領委員會――これには全會議の殆んどすべての人員が參加し、且つ代表者でないもの〻方面からの『自由意志なる防衞』も亦許された――に於て行はれた。だが、その他の問題、例へば、植民地問題、戰爭問題等においても亦、大きな仕事が行はれ、それ等は大部分委員會に附托された。

若し吾々にして會議の仕事の一般的性質原則的の問題を示すならば、吾々は、確信をもつて次の如

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

く云ひうるであらう、曰く、會議の仕事は上程された諸問題の性質との關連に於て非常に高度の原則的水準を保つてきたと。

既に、綱領問題の如き大問題は討論の高度の水準を要求した。綱領は、最も基本的な原則的テーゼの組成である。此のことは簡單に一日で充分片づけられる一政治問題ではなく、今日上程され、明日決定されるやうな問題ではない。今日頭を熟し、明日政治的理解力から跡かたもなく消え去つてしまふやうな問題ではない。既に、かゝる大問題の討議と云ふことが、會議の適應的性質を規定するためには充分であつた。第五回會議以來、可なりの時日が經過してゐる。吾々は、異常の政治的意義ある諸事件に滿たされてゐる所の一年間の偉大なる歷史的時期の成果をふりかへつて包括しなければならなかつた。吾々は、資本主義の一般的危機の性質の變化と云ふやうな、意義ある現象を前にし、經濟階級の偉大なる鬪爭の一系列に遭遇し、大支那××の如き事象に當面した。そして、それこそは、世界の全經濟的、政治的現象を決定的に變化せしめ、資本主義的世界の諸權力間の、資本主義對諸權力と植民地との、資本主義的諸權力とソビエット聯邦との基本的諸關連を變化せしめたものであつた。此の同じ時代に、社會主義を建築する國家、ソビエットロシヤは成長し、且つ、强化した。此の國家は新なる機構と新なる任務に當面してゐる。大變化は吾々の敵陣の中でも起つた。帝國主義者における『ラインの水』は、その社會民主々義的代理者においても矢張り同樣である。されば、第六回會議が綱領の問題を提示したと云ふ事情、及び、吾々が偉大なる歷史的時期の諸事象の經過を包括し、その土臺の上に吾々の戰術を定めると云ふ事情——すべて之等のことは、第六回會議の仕事に特殊の原則的性質を與へたものである。

第二章 コミンテルンの綱領

A 綱領の型態

第一番に私は綱領について語らう。綱領についての討論において（文書及會議自體において）綱領の型態の問題が、即ち、綱領は長くすべきか、短くすべきか、宣言の型にすべきか、又はその他の型をもつべきか、言葉の意義においてポピュラールにすべきか、又は、それは不可能であらうかと云ふ問題が論ぜられた。同志の一系列は此の問題において非常に決定的な最後的諸要求を提出した。例へば次の如く定義した、綱領は——と同志の一人は云つた——從屬植民地の農民にも分るやうなあらゆる言葉でポピュラールにされなければばならない、と。種々なる同志がマルクス、エンゲルス及レーニンの適應的注意書きを引用して此の要求を支持した。此の要求も亦他のあらゆる誘惑的、みわく的なものと同じく、たゞ實行しがたいと云ふだけの誤謬をもつてゐた、正しくあるがためには、吾々は、次のことを注意しなければならぬ即ち、簡單、ポピュラール等々の確乎たる支持者が綱領が長いと云ふ動議を提出したことである『プラウダ』に公表された最初の草案は、追補、改訂、改變等々の一系列により會議の鎔解爐によつては短くされず、むしろ、長くされた。ポピュラールと簡單と云ふやうな人のいゝことを要求した所の同志が、吾々は、一體如何なる時代に生き、且つ、如何なる組織のために綱領を作成してゐるのか、と云ふことを念頭に置かなかつたことは正に此のことの中に問題の全本質が横はつてゐるのである。

今日まで、國際的××的大衆運動の土臺に基き、すべての黨の總體のイデオロギイ的、戰術的原則を組成した所の黨ドキュメントなるものはなかつた。第二インタアナショナルは從來とても、又今日でも之をもつてゐない、何となれば、その個々の支部間の矛盾は此の問題を一度も提出せしめなかつた程、しかく大きく、且つ、此の黨ドキュメントはたゞ空虛な無内容な、そして虛無的な談話によつて說きかへられてゐるに過ぎない。そのために、吾々は、過ぐる會議（第四、第五回會議）に於て及び、第六回會議において、特に國際的綱領の形成のための最初の試みをやつたのである。そして、正にかゝる事情こそは、私が觸れた所の諸要求を滿たしがたいものとしたのである。吾々は、何か、吾々の國際的綱領となるべきかを考察しなければならぬ。吾々は複雜せる諸關係の下に生活してゐる吾々は諸種の方面で成熟してゐる世界××が諸國において色々に發展しその中既にソビエット聯邦に於て勝利してゐるやうな、國際的、國内的關係の形成が非常に錯雜してゐる時代に生活してゐる。そして、そこに在つて、會議は數多の黨のための綱領を作つてゐるのである。綱領——が何んの一般的原則の單なる吹聽ではない——古き方法において、例へば資本主義から語りえないことは當然であらう資本主義は合衆國においては一定の發展段階に在り、支那においてはそれとは全く異つてゐる、ポーランド及びスペインに在つては更にそれとは異つた第三の途を歩んでゐる。吾々は種々なる發展條件を考察しなければならぬ。綱領は權力のための鬪爭の時代なる今日少くとも諸種の典型の國家における鬪爭條件の輪廓、鬪爭の目的及び型態を含んでゐなければならない。

すべてかゝる諸事情に、今やコミンテルンの綱領が六つの小方面に編成されえないこと、及び、如何なる範圍においても、あらゆる

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

努力を拂つても、恐らく此の綱領をポピュラールに作成することの要求は實現されえないと云ふことを、明白に示してゐるのである。之をポピュラールとするについては通俗的な解說、註釋等が必要であり、特に此の綱領に留意せるパンフレットの全運動が要求されるのである。

B 綱領の國際的性質

すべての採用された綱領の基本特徵は何か？綱領の基本特徵は國際的性質である。

此のことは勿論綱領の從來の典型においても、個々の『國家』の黨綱領においても何等變りはない。コミンテルンの綱領に取つての特徵的なことは、全綱領が初めから終りまで、序論から結論までそれに貫かれてゐる所の國際的主眼である。此のことは、現代の世界資本主義の綱領が抽象的にでなくて具體的に研究されてゐることの中にも表現されてゐる所である。綱領は現代世界經濟の種々なる部分の相互作用を分析し、特にソビエツト聯邦を分析してゐる。若し××的プロレタリアートの綱領を語らうとするなら、××的過程の國際的性質を銘記し、且つそれを現實性において、即ち或隊伍を組んだものとして、統一的なるもの、一體的なるものゝすべてのその部分において特徵づけなければならぬ。單一な過程としてではなく、非常に錯綜し且つ種々なる時期に分れた所の種々なる過程のその部分における一つとして特徵づけなければならぬ。

これは種々樣々の型を採る。けだし、それは、プロレタリア的××からも、植民地××からも、民族的解放戰爭からも起されるからである。これは種々なる型を採り、且つ、その諸部分は種々なる時期に分たれるが、然し乍ら、之等の種々相にも拘はらず、

その本質的部分の發展が種々なる時期に展開されるにも拘はらず、客觀的、歷史的見地から見て一の全體であり、ソビエツト聯邦の形成と資本主義的秩序の××とは等しく行はれるものであり、後者の展開は同時に前者、即ち新なる社會主義的秩序の形成である。吾々の綱領の國際的性質は、××主義社會と云ふ、吾々の終局目的の特徵だけにおいても亦強調される、綱領は、××主義の世界組織に關し、種々なる國家への種々なる生產力の配分等に關して語つてゐる

これは、個々の國家における××から、未だ嘗て實現されたことのなかつた××から組織された所のプロレタリアートの世界××について語つてゐる。個々の國家において、××は、中間的段階の全系列を通じて行はれ、そして、プロレタリア××へ成長するのである。綱領は、國家の種々なる典型のために、××的諸過程の發展の種々なる段階を規定してゐる。國際的××過程の發展の種々なる形態はかうして勞働者階級の世界××への方向に於けるその前進運動の見地から發生したのである。綱領の、かゝる國際的性質は、その『要求』をも亦決定する、それは、植民地及發達せる國家に取つての種々なる任務を示してゐるが、此の種々なる任務は決して、それが種々なる方面から履行されることを意味するものではない。その反對である。それ等すべては同じ途に、勞働者階級の世界××への途に進んでゐるのだ。會議は綱領の中に、吾々に敵對するイデオロギー——不幸にして諸國の勞働者階級の大衆中に未だ根を下ろしてゐる所の——の批判をも與へた。吾々は、吾々のインタアナショナルにおいてたゞ歐洲プロレタリアートの××的部分をのみ結合してゐるのではない。コミンテルンはその指導者を全世界の中に擴大し、××主義を地上の隅にまでも、國際勞働者階級の、及び、勤勞大衆一般の遲れたる層の中にまでも侵透し初めつゝある。此の故に、吾々の綱領は、主としてかの歐洲勞働者國の綱領であつた寧ろ古き綱領から區別されるべきであり、それは、支那の孫逸仙主義、印度のガンヂ主義、北米合衆國の黑人の下におけるガルヴェイ主義等の思想的潮流に對する批判である。吾々の綱領は××的經驗——たゞに歐米工業勞働者のそれのみならず、支那プロレタリアートの經驗、印度勞働者運動の最初の經驗及び、かの社會民主々義が『文明的な』勞働者の系列の上層のために保持されてゐるプロレタリア層の經驗——の一般化である。

オーストリイ社會民主々義の理論的機關『鬪爭』はその八月號において一つの指導論文——その意味は、社會民主々義が後進植民地國家のプロレタリアートをその『精神的友人』の中に加へることを準備してゐると云ふことの中に在るのだ——を發表した。之こそ歐洲×主の見地であつて、然も、これすら、汚れたものをその家に入れる時のやうに、嫌々ながら、仕方なしにしてゐるのだ。吾々の見地は××家——一切の種族、一切の土地の勞働者階級と勤勞者との廣汎なる大衆を××的鬪爭へ教育する事なくしては國際帝國主義を××する事は出來ないと云ふこと、吾々の偉大なる力、吾々の決定的勝利の保證は正に茲に在ること吾々が、抑壓され、屈服せしめられてゐる植民地大衆の巨大なる雪崩を帝國主義者へ向けて切つて落しうる勝利の力は正に茲に橫はつてゐること、以上のことを非常によく理解してゐる所の——の見地である。

それ故に、コミンテルンの全綱領の基本原則は吾々の綱領の國際的主眼である、その內容において吾々の綱領は、プロレタリアートの世界××のための鬪爭の綱領である。

C 吾々の綱領はプロレタリアートの世界×× のための鬪爭の綱領である

演劇『ルューボフ、ヤローワヤ』——の中では、如何なる場合にも『世

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

界尺度において』自ら行動する一人の××的水兵がある、『世界尺度における』かゝる革命的特質の中には、それにも拘はらず、偉大なる××的情熱が含まれてゐる、それは、既に國際的勞働者階級の有力なる大衆を動かしてゐる所のものを表現してゐるのだ。

吾々は、世界××を遂行する吾々の任務を一つの實踐的任務と考へる。吾々は、かゝる任務を、資本主義の一般的危機の諸關係の下において、既に發生せるソビエット聯邦におけるプロレタリア××の土臺の上で、及び、植民地大衆運動の土臺の上で解決するのである。プロレタリアートの世界××のための鬪爭期として現在の時期を評價することは、正に分水界を形成する。吾々の綱領はすべての改良主義的な社會民主黨の綱領から判然と區別される。

既に、國際社會民主々義が、憐れむべく、恥ずべき降服をやつた戰爭開始の際、有力なる社會民主々義理論家の一人、ハインリヒ・クノーは戰爭前期社會民主々義の種々なる部分の××的幻想を露骨な手段でもつて打破せんとする目的をもつたパンフレットを書いた。

此のパンフレットにおいて、クノーは、こんな問題を示してゐる曰く、資本主義は更に血潮の中に自分の力を見出した。資本主義が新に生れ、且つ新に成果を獲得するが如き國がまだ多數に存在する吾々はかゝる諸事象を凝視しなければならぬ。然も、世界戰爭は、世界資本の沒落を意味するものではない。戰爭は大なる資本主義的發展の新時代を到る處に捲き起してゐる。資本主義は、初めて眞の段階において、その血潮と權力とを表明したのである。權力のための鬪爭——プロレタリアートによる——について語ることは出來ない。此のことは妄想家の幻想である、と。

ハー・クノーの理論は、社會民主々義の全體の『正當化』に相應はしい理論であつた。

全戰後時代には、かゝる理論の發展が到る所で起つて來たやうに見えた。それから餘程後にも此の理論は種々繰返された、しかもそれが右翼社會民主々義であつたし又それに止まつてゐる所のクノーによつてではなくて、左翼社會民主々義者、オーストリイマルキストによつて。

私がさきに引證した『デル・カリプフ』なる雜誌の、ブラッセル會議を注目した所の號の中で、此のクノーの理論を完全に繰返してゐる一論文が、發表された。同誌の此の指導論文からの引證を許してもらはう。論文の著者はオスカア・ボラークである彼は書いてゐる。

『資本主義は戰時の、及び戰後時代の動搖を克服した。世界は世界戰爭後安定した。巨大なる聯邦を形成してゐる極東においては民族的××の巨大なる出來事が爆起した。

ウラルの文化は覆へされ、資本主義世界經濟における此の巨大なる聯邦は產業革命を遂行し、アジヤは全體として進歩してゐる。幾億の人民がブルジョア××を經驗し、民族自由と獨立的國家性とのために戰つてゐる。ブルジョア社會形成の內面ではプロレタリアートが、成長し、階級としての形成への第一歩を踏み出してゐる。

全東歐、巨大なるロシアは土地分配の變革を成就した。歐洲人の五分の二が住んでゐる所の地球においては農業××が封建的土地所有を破壞し去り、新國家に於ては歷史なき農民階級は政治的行路に登場した。

中歐においては、勞働者階級は一八四八年に始まつたブルジョア革命を完了し、資本主義的ブルジョアジイと封建××政治との妥協を打破り、勞働者階級の指導の下に民主的共和國を作り上げた。

西歐、即ち、ブルジョア革命が既に從來完了されてゐる古き民主々義の諸國家に於ては、完全な政治的自由が獲得され、世界戰爭は經濟的又は國家的秩序の何等の變化をも起さなかつた。資本主義は動搖してゐない。

勞働者階級は長期に亘る上向線に於て、大多數と權力とのための鬪爭を戰つてゐる。太平洋においては新なる權力が成長し、蓄積され、かき集め、準備されてゐる。アメリカ帝國主義はソビエット聯邦の限界の上にまで勢力を伸張し、經濟的に、政治的に『世界支配權』を獲得した』

成程、之は一見した所全く正しき事象について語られてゐるやうに見える。極東における××、土地所有の廢止、ロシアにおけるツアーリズムの××と云ふのだから然し乍ら、吾人は、此の評價の意味が何處に在るかと云ふことをよく〳〵觀察しなければならぬ。吾々の時代のかゝる評價の意味は、それが一般にプロレタリア××を與へてゐないと云ふこと、及び、それが容易に與へられ得ないと云ふことの中に在るのだ。

爆破すべきデル・カムプフの見解に從へば、戰爭中、及び直接戰後にはブルジョア革命の完了より外に、即ち百年以上も前の大フランス革命、七十年代の英國革命が完成した所の革命より外に仕事がないのである。戰後時代はブルジョア革命完了の時代であり、且つそれのみであるのだ。ソビエット聯邦におけるプロレタリア××に關しては何れも云つてゐない。以前のツアーリズムのロシヤにおいてなされた仕事は、結局地主に對する農民の農業××にして評價されて了り、勞働者階級は茲では全く看過されてゐた。同じやうな評價が、東方における諸運動についても行はれてゐることを見る。即ち、それ等諸運動は、何れも資本主義的發展の途を進めるものだと云ふのである。

かゝる日和見主義的テーゼを何處かで現實性と一致せしめる爲に

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は、彼等は明かに先づ一旦、かゝる現實性、又は、その重要なる所々の諸事實を努力でもつて曲げてしまはなければならぬ。そして、正に此のことこそ、社會民主々義者――更に「左翼」も――がその理論として示す所である。彼等は云ふ、吾々は十月××を「否認」しないのに、何故それをブルジョア革命と同地位に引き下げてはいけないのか？吾々はソビエット聯邦と資本主義諸國家間との抗爭を「帝國主義的諸國家間の抗爭」と「抽象」しないのに、何故それを云ふ分け方で呈示してはいけないのか？吾々は植民地一般、特に英國植民地に對するソビエット聯邦の影響を言葉において示してゐないのに、何故ソビエット聯邦の政策を印度に對して向けられたツアーリズムの政策の「擴張」として説明するの大膽さをもつてはいけないのか？正にかくの如きが彼等の理論である。時代の總評價における資本主義の役割の全批判における、ソビエット聯邦の批判における、及びそれに適應して勞働者階級の任務の、發展展望一般の、特に植民地發展の評價における、何とラヂカールな、何と不可避的な深刻な相異であることよ！

こゝで、社會民主々義者は現下の資本主義的發展の批判において資本主義的見地――極めて樂觀的な立場をブルジョア自身の卓越せるイデオロギストは執る――からその批判をやつてゐることが示されてゐる。

若し私の記憶に誤りなければ、私は吾黨第十五回大會において、次のやうなことを云つてゐる所の一人の卓越せるブルジョア學者ゾムバルトを引き合ひに出した。彼はこう云つてゐる、資本主義は既に古くなつた、それは既に「年老いて」ゐる、それは既に白毛をもつてゐる、と。世界經濟の問題における專門家なるベルンハルト・ハアムスの如き經濟學者も次のやうな考へをもつてゐる、歐洲は既に古くなつた、それは、その沒落の前夜に在り、古典的な形態においてのみ記載されてゐると。ミイゼス教授――同じく「最上級」のブルジョア的な獨逸經濟學者、アドルフ・ウエバアは「一般國民經濟學」の中で彼についてこう云つてゐる、彼こそはコレクチーヴ經濟を嘗て發見した鋭き批判家である、と――は、コレクチーヴ經濟の問題についてのその勞作の中で次のやうに書いてゐる「世界は社會主義に接近してゐる、それは人類の壓倒的大多數が希望してゐるからである。シュマーレンバッハ教授は（其論文オッシッシエンツアイツング二五五號「束縛された資本主義」を參照せよ）悲しみをもつて、獨占的腐敗の、寄生主義の大なる成長、工業家の增大し行く墮落を述べてゐる。最良の帝國主義的マークのブルジョア的イデオロギストのかゝるすべての七曜星共は、資本主義の危機について哭聲を上げることをその本務としてゐるが、社會民主々義的指導者にあつては、資本主義の今日の「開花」とその輝かしい遠景とによつて歡喜の叫びを上げてゐる、カール・レンナアは此の領野におけるすべてのレコードを破つてゐる（彼の論文「戰後の社會主義的政治の世界經濟的基礎」「デルカムプフ」八九號參照）彼は豫言的に云つてゐる。

「それは（社會主義はブハーリン）廢址界の方へ行くものではなく、勞働者階級が遺物的資本主義の豐かな果實として算へるべきものである。資本主義に、一般的技術をではなく、たへず增大する所の富を獲すべきものである。アペラ屋をではなく、パラダイスを社會主義は資本主義から受取るべきものである。

こうして、資本主義は先づ第一に勞働者階級に取つてのパラダイスとなり、社會主義は此のパラダイスの遺産を繼承することゝなつた。今や、何故に資本主義のパラダイスが、前大臣レンナアの筆によつて資本主義的パラダイスを建設すると云ふやうなことをかくも熱心に云つてゐるのか理解されるであらう。此のことが理解されても、それにも拘はらず何故に此のパラダイス的資本主義が特に社會主義へ移行しなければならぬか？

かくして、吾々の綱領は、全時代の批判に關する社會民主々義の理論的基礎との決定的對立において、此の時代をプロレタリヤ××の、權力鬪爭のプロレタリアートの××のための鬪爭の時期として掲げるのである。

R　帝國主義、社會主義及び殖民地××の展望

社會民主々義的立場は何を意味するか？それは、資本主義をして更に高い程度において前進的役割を果さしめること、資本主義を更により多く「進展せしめる」ことを意味する。それは勞働者階級から資本主義的秩序を××するの任務を奪ひ去るものであることを意味する。ここから植民地問題についての第二インタアナショナルの綱領の立場が出てくる。かゝる見地からして、植民地問題は全く空想的、學究的、及び統計的なものとして提示され、單に植民地における資本主義的發展段階か消滅するか、又は、極少なものに短縮されるかしなければならぬと云ふやうな問題を投げ與へてゐるに過ぎぬ。かゝる植民地の非資本主義的發展の可能性に關するテーゼこそは恐るべき異論であり、バクーニン主義的狂想であり、嘗てレーニンの立場から外れたプレーハーノフの如き共產主義的ナロードキニズムであり、蒙昧の粦との化合物である。

ダン氏は之に關し、ロシヤ・メンシエイズムの一切の眞理の柱と支持物とを叮嚀に吾々に數へ示してくれる。ダンは、第二インターナショナルのブラッセル會議に關するその論文の中で（ゾチアリスチ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ツシエ・ヴエストニイク」十六、十七號）東方××を次の如く判斷してゐる。

『國際的資本は、始められたる之等（植民地、ブハーリン）諸國の工業化の中に、既に、發展せる資本主義をもつ所の國家の勞働者運動へのその抑壓と脅迫とのための強力なる支柱を發見し、支那、印度等々の勞働者をして先づ階級形成と階級鬪爭との途への第一歩を踏み出さしめた。國際的資本は、之等の勞働者の運動の上に、西歐プロレタリアートが、十年間のあひだの困難な、歷史的な經驗によつてやつとそれから解放された所の、かの盲目的な誤まれる途に導かれた幻想を引きずりまはした』

クノー、レンナア・エンド・コムパニイは、資本主義的工業の中央における、帝國主義的組織の決定的交叉點における、プロレタリアートの權力把握の可能性に關する『幻想』を破壞した。ダン・エンド・コムパニイは一般的コーラスにおいて彼等に一致し、且つ、資本主義の限界の上に出る所の植民地に取つての可能性の幻想を破壞した。茲で吾々は示さなければならぬ。

それ等が眞實を云へば眞理を顚倒してゐるものなること、及び、吾々を『ナロードニキ』又は『バクーニン主義者』として特徴づける所のカルタをもつて遊戲してゐるものなることを。正に、正統的見解を防衞するものこそ、吾々である。あらゆる國家は無條件に資本主義的發展の段階を經過するものであり、社會主義社會への移行の任務はそのために示されうると云ふやうなテーゼをマルクスは決して書いたことはない。マルクスは革命家であつたし、且つ、マルクスは、資本主義的段階を『飛び越える』ことを許すやうな諸事情のかゝる歷史的連結を求めたのである。彼は、一般的、普遍的理論から遠く離れてゐた。すべての民族及び國家が彼を圍繞する歷史的環境から獨立に同樣し、プロシャの兵士のやうに歷史の舞臺を行進し、且つ、到る處で資本主義的な途掃除をし、それが社會主義的パラダイスになるのだ、と云ふやうな一般論は決して唱へなかつた、（資本主義的パラダイスに關するレンナア君の形式は、吾々の遊星においては未だ甞て見られない所である）一言をもつて云へば、マルクスは、正にさきの『幻想』（權力把握に關する、資本主義國家の破壞に關する、及びプロレタリア××等々に關する）に加擔し、レンナア、クノー及び、すべてのその他の政黨、資本主義的『秩序』のおう歌者及び護衛者に對して痛く憤激してゐるのだ。マルクスによれば、前資本主義的社會經濟的社會秩序から社會主義への直接的移行を促進しうる所の特殊の歷史的條件、即ち、特殊的環境、特殊の歷史的境遇と云ふ實際狀態は可能なのである。かゝる條件は先づ第一に、他國の勝利を得たるプロレタリアートの支持である。マルクス及びエンゲルスは、その發展の歷史的入口において、ロシャに就いて問題を示してゐる。『祖國雜記』の編輯者へのその有名なる手紙の中で、マルクスは、ロシャにおける資本主義の運命について次のやうに書いてゐる。

『ロシャは、西歐民族の形態における資本主義國家にならうと努力してゐるが――そして最近の經過においてロシャは此の方面へ進まうと少からず苦勞してゐる――それは、ロシャの農民の大部分をプロレタリアートに變化せしめることなくしては達せられない、そして、一度び資本主義的秩序の胎内に導かれたならばすべての他の瀆神的民族と同じく彼自らの冷酷なる法律は瓦解するであらう。之れですべてだ！だが、之れだけでは未だ、吾が批判家は之だけで滿足しない。此批判家は西歐資本主義發生の吾々の描寫を常に經濟的發展の一般的經過の歷史哲學的理論に、すべての民族が運命的に服從しなければならぬ所の理論に、社會的勞働の生産能力の上向と人間の全面的發展とのための大なる自由を確保する經濟型態へ最後に到達するための歷史的條件をそこに見出す所の理論に變化せしめてゐる。だが此のことは、私を餘りにも侮辱し過ぎることを意味し、且つ同時に大なる損害の生ずることを意味する（ロシャ語反譯から）

フリードヒ・エンゲルスも同じ見解であつた。彼はロシャの村落共同體に關する論爭の際にかう書いてゐる。

『ロシャ村落共同體は、既に以前からその生命を失ひ、解體へのあらゆる徵候を見せてゐる。共同體のより高度の形態への移行の可能性は爭ふべからざる事實として存在してゐるが、然し乍ら、此の移行は、諸事情がかゝる移行を許し且つ、農民が土地を個々の經濟においてではなくて全村落共同體として共同に耕作するといふ意味において發展性を示してゐる時に限る。かゝる場合においては、ロシャ農民は直接、より高度の形態へ赴き、且つ、ブルジョア的小所有の中間段階を飛び越える。此のことは、だが、たゞロシャ村落共同體の徹底的破壞以前に既に西歐プロレタリアートが勝利的革命を完了してゐ、且つ、それと共に上述の移行に必要な諸條件を確保してゐることからのみ可能である。即ち、ロシャ農民團がその經濟組織にかゝる基本的再編成のために必要とする所の物質的手段が第一である』（ロシャ語反譯から）

かゝるテーゼを『無條件の原理の經過』によつて『否定』することは單に安價な、そして、卑俗なる假面に過ぎぬ。マルクスもエンゲルスも、決して、すべての條件の下における非資本主義的發展の不可避性について語つてはゐない。彼等はかゝる途の性質を嚴格に條件の總體に從屬せしめたのであつた。農奴をもつ封建的經濟狀態からの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ロシアの發展の入口は、ロシヤに取つて斯る條件を與へなかつた。だが今は、ソビエット聯邦に於て、プロレタリアートの××が既に實現されてゐる時代においては、支那、印度、エヂプト等々に取つて此の可能性は充分に存在する。事件の個の經過が實際的に即ち鬪爭によつて、唯鬪爭によつてのみ決定されるものであることは疑ひのない所であらう。若し現歴史的段階における階級力の關係が吾々の發展に取つて有利であるなら、理論上、同樣の事は他の發展に取つても亦勿論除外されない。更に吾々は次の如くいひうる、後進國家の非資本主義的發展即ち一定の諸條件の下における社會主義的發展の可能性の問題は、一般的問題の一部分であり、且つ、然も、前資本主義的經濟型態の、並に單純なる商品經濟（即ち小ブルジョア的社會型態）の社會主義的發展の可能性に關する問題を示すものである。農民經濟、手工業經濟等々の問題は、プロレタリア××の條件の下においてはその本質上、均しい問題である。

從つて吾々の綱領が、プロレタリア××の時代としての吾々の時代の判斷から出發し、プロレタリア××國としてのソビエット聯邦の評價から出發した時には、それと同時に、植民地及び後進國一般の非資本主義的發展（即ち社會主義的）の可能性――そこではかゝる發展の途のために戰ふことが一切のコムミニストの本務として與へられてゐる――からも亦出發してゐるのである。

E 綱領の討論問題

綱領の『討議問題』、又はより正確には、會議において可なり精力的に論議された所の問題に關し、若干語ることは今の所必要である。『論爭は眞理を世界に齎す』と云ふ諺にもあるやうに、その眞のスローガンと云ふものは會議が採用した綱領によつて知られるのである。會議には、基本問題においての意見の對立がなかつたこと、及び、ありえなかつたことは勿論だ。此の基本問題とは、××主義を血みどろな地獄によつて社會主義的裏切りから區別してゐる所のものである。『組織された資本主義』――表面的にのみ危機を淸算し、且つ、計畫的に仕事をしてゐる所の――の問題、更に『ウルトラ帝國主義』帝國主義戰爭を外見的にのみ除去し、且つ、神に奉仕する國際聯盟にはアメリカ大統領の後援の下に『地上には平和を、人間には滿足を』與へる所の――の問題、更に、デモクラシイと×獨、ソビエウトと『掠奪者の掠奪』等に就て諸問題は何等の疑問もなくスラ〳〵と運ばれた。論爭は主として部分問題において行はれたのである。

金融資本の問題、その定義、その經濟的自然、他の資本型態との比較におけるその權力の限界は、吾々の討論において一の意義ある役割を果した。

資本主義的恐慌の理論は、今度は顯著な意見の相違はなく、且つすべては從來の定義の確認の上で運ばれはしたが、再び新に刻み込められた。

帝國主義の問題その發展、その展開の華美さ（第一に、獨占の中に自由競爭が殘存してゐる）は、嚴密に研究され、且つ、非常に完成された型態において表現された。

社會民主々義の問題、その役割その社會的根據、その比較的長い生存能力は、綱領委員會においても會議自體の總會においても討議せられた所の問題に屬する。此の問題は討論においては全面的に取扱はれた。即ち、社會民主々義が小有產者層の中に根を下してゐること、特にプロレタリアート自身が小有產者的層（農民層、手工業者、小商人等々）から補はれてゐること、及び、帝國主義的發展とのその結合（勞働貴族の、各國に於るプロレタリアートの下層的地位の剩餘利潤の、最高級プロレタリア層の腐敗等々の問題）夫々の社會的根據との連絡において新に研究され、評價された。ブルジョアジイの友人としてのその特性において、剩餘利潤の問題が全面的に研究され、且つ、推敲された（植民地侵略に依る剩餘利潤、高き利潤率をもつ國家への資本輸出に依る剩餘利潤、諸種の技術的發展段階における諸國家間の商品交換による剩餘利潤、獨占的性質一般の剩餘利潤等々々）かくして『自らの』植民地を持たない國家（獨逸、スイツツル等々）における剩餘利潤の問題が解明された。社會民主主義の斯る種々なる社會的土臺は未だ破壞されてはゐない。むしろそれは資本主義の恐慌によつて動搖されたに過ぎぬ。そして、此のことこそは、何故に獨逸の社民主義的勞働組合の會議においてコムニストが放逐されたか、及び人々がかの市民的大臣クルチウス博士に拍手喝采をしたか、及び何故に英國勞働組合會議において『帝國平和』に關する決議が採用され、何故にミュラーのやうな十字軍社會主義者やバウル・ボンキュールのやうな帝國主義者やアルベルトトーマのやうなファシストやが今なほ勞働者運動の指導力を握つてゐるか？を我々に敎へてくれるものだ。

ファシズムの問題は、同じく可なり議論を引起した。或同志は、ファシズムは反動のすべてであり、勞働者階級に對する彈壓のすべてゞあり、迫害手段のすべてゞある、と、他の同志はそれと直角に對抗した見地に立つて、ファシズムはあらゆる反動ではなく、むしろ、植民地をもたない國家において、及び、後進農業國において發展せる一つの反動に過ぎないと云つた非常に確實な意見の交換により、充分に正しい定義を發見することが出來た。何となれば、ファシズムは、特殊の特別な、獨自の標識の全系列を提立するものだからである（それは小ブルジョア的大衆

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を自らに吸收し、小ブルジョアジイの一部分及び個々勞働者階級の一部をすら買收する)にも拘はらず、ファシズムが、表面的に植民地を持つ國家の系列では、又は、產業的に發達せる國家では育たないと云ふことは正しくない。資本主義的秩序が動搖し、ブルジョアジイの地位が低下し、ブルジョアジイが大衆なくしては自らの支配を維持し得ず、内×の要素が成熟すること——、すべてかゝることは最高に發展せる國家においても亦『通過』する所であり、ブルジョアジイはファジズムの方法へ避難所を求めるであらう。

プロレタリア××の時代におけるこの經濟政策の問題(ネップ、戰時共產主義)は、それに續いて更に長い討論を重ねた。此の問題においても壓倒的大多數は一番初めから、既定の決議を全然信じてゐた。ネップの諸問題においては次のやう問題が討論された

(一)新經濟政策の『本質』(二)一般的効果又はその適用の制限された効果、(三)種々なる國家におけるその種々相『新經濟政策』の尺度。

新經濟政策の『本質』の問題において、議論は次のやうな結論に、即ち、その『本質』は市場關係からの存在(且つ然も目的に適つた所の存在)であり、國營工業と小經濟との結合——その分裂と孤立とは正に市場關係の客觀的必然性の中に現はれてゐる——の必然的形態であると云ふ結論に歸した。

それ故に、私は既にコミンテルン第四回會議において次の如き、あらゆる同志から確認された様式において新經濟政策の根據を定義したのである。

「私は主張する、政府的權力の舵機を握つてゐるあらゆる個々の國家のプロレタリアートは、今日、之等プロレタリアートが合理化し組織化し、且つ計畫的に耕作しうる生產形態と、それからその發展の最初の段階においては合理化し計畫的に耕作することを得ない所の生產形態との關係の問題を、限前の重要な經濟的、組織的問題としてもつてゐることを。此のことは、吾々が實踐に移すべき重要なる經濟的問題である。プロレタリアートが此の比例を正しく注意しなければ彼は不可抗的にたゞに生產力を發展せしめないのみならずそれを阻害するが如き狀態に陷るであらう。プロレタリアートはすべてのものを一時に組織してしまふことは出來ない。

個人的經濟を經營してゐる所の小生產者、小農民を、プロレタリアートは彼等自らのプランによつて驅逐することは出來ない。

かゝる層を、社會的に重要な機能の地位に就かしめることは出來ない。飛躍的成長の過程は必ず故障を導く。それは生產力の腐れる低下を、及び經濟的生活一般の廢止を意味する。

プロレタリアートは、かゝる事情の下において今一つの異つた現象に當面する。それは小農や小生產者が多すぎるから、之等の小生產者、小農民の經濟的機能の完全なる發揮のために巨大なる管理機關を作り、もつて彼等を官公吏に役立たしめることが必要であると云ふ見解だ。すべてのかゝる小商業を官吏と交代せしめる企ては——、實際において、國家の役人である——此の官吏に支拂ふ小費用として驚くべく多額の不生產的な浪費をやる所の巨大な機關を惹すことになり、正に小生產の無政府的狀態を現出する。最後の結果において、プロレタリア國家のかゝる全官理主義、かゝる全經濟的機關は、何等生產力の發展を成就せず、むしろ、それを低下せしむるに過ぎぬ。現實性において、そこからは、豫期してゐたものゝ正反對物が正確に與へられることゝなる。そして、此の故に、かゝる機關を破壞する所の鐵の如き必然性に迫られるのであらう。それが反革命の一結果であるか、小ブルジョアジイの積極的な干渉であるか或はソビエットユニオンにおけるが如く黨自身から建設され再組織されたものであるか——何れの場合においても此のことは起るであらう——と云ふことを、プロレタリアートが自ら良く理解しなければ、自らは、他の力に顚覆されるであらう」(コミンテルン第四回會議のプロトコール、四一七頁)

第四會議においては、更に、階級鬪爭の問題が、經濟政策の問題と、計畫經濟の問題と、種々なる經濟範疇相互間の比例の問題と結びつけられた。そこでは、管理指導の下における誤れる政策と誤謬とが、プロレタリア×鬪から大切な骨組を忘れてしまつた所の階級關係を如何にしてかく形成したかが明白に示されてゐる。そこでは生命力のない官僚的超集中主義——あらゆる良き見解を直にその反對物に顚倒せしめる所の——の危險性が充分明白に示されてゐる。既に第四回會議においてはレーニンは生存中であり、且つ彼の直接的指導の下に『新經濟政策』の客觀的必然性が基礎づけられたのである。第四回會議が此のレーニンの原則的見解を採用しなければならなかつたことは當然である。

新經濟政策の一般的効果又は『民族的條件性』の問題は、特に最初の問題によつて既に決定されてゐる。若し『ネップ』の基礎が都市と村落と結合、又はより緊密に工業と農業との結合、即ち市場の『方法』の中に存在するとすれば萬國における小ブルジョア的經濟の實際的存在は、以上の問題を全決定的様式において規定してゐるのだ。それとは異つた形態は、市場關係の範圍、尺度の問題である(即ち『ネップの擴大』)そこでは經濟的社會構造における相異により、經濟的關係の『成熟』の程度により、非常に大きな相異のあることは不可避である。弱少な工業と弱少な機械力とによつて二千五百

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

農業の農民の素質を變革するのには長い時日が必要だ。そのためには同様に市場關係の特別に組織された形態が要求される。かゝる國家においては、例へば農業的共同組合は實際驚くべき大きな意義をもつ。強力な工業が存在し、且つ、比較的農業の數の少い所では、市場關係は急速に清算される。經濟的集中化の、勞働の社會化の過程及び、それの集中化の、經濟の計畫的組織化の尺度に從つてそれは愈々急速に進む。新經濟政策は非常に急速に自分自身を消耗し行くものである。

諸國家の種々なる典型の問題は勿論、綱領委員會においても亦その適應的な地位を占てゐる。吾々は、次の如き三つのかやうな典型を示さう、最高資本主義國家、中程度資本主義的發展の國家及び最後に植民地及び從屬國家。茲で、論爭は、一つの、又は他の國家は如何なる題目において從へしめらるべきか、のために行はれた。吾々は、國家の種々なる典型のために、此のことを勿論單純に『片づけ』てしまふことなしに、種々なる發展經過を表式的に提出した。吾々は、かゝる發展經過を、吾々の豐富なる××的經驗——之等諸國家における基本的な經濟的政治的關係の驚嘆的な、具體的な分析の基礎の上で、之等諸國家において吾々が集めた所の——の基礎の上で規定したのである。

以上が、討論せられたる主要諸問題である。

F 全體としてのコミンテルの綱領

吾々は今や、全體としての綱領の具體的性質規定に赴かなければならぬ。

一面においては第一及び第二インタアナショナルと他面においては第三インタアナショナルとの關係も、又、種々なる國家の勞働者階級の從來の××運動と今日の××的コムニズム運動との歴史的結合性を、確定した所の『紹介』が綱領の總理論的構成の最初に存在する。同様に、『紹介』において、コミンテルンが全然辯證法的唯物論の土臺の上に、マルキシズム及びレーニニズムの土臺の上に在ることが立證的に說明されてゐる。

そこで、第一章——即ち、資本主義の世界組織、その發展、その內的矛盾の尖銳化、及びその不可避的沒落が取扱はれてゐる部分——は終つてゐる。そこでは、一般における資本主義社會の、及び、特殊に於ける資本主義的發展の過去の時代、產業資本主義の時代の分析が行はれてゐる。そこから、第一章の終りの部分の次に直に第二章——如何にして資本主義的組織の一般的運動の土臺の上で資本主義が金融資本主義へ變化したか如何にしてカルテル、トラスト及び銀行が發達したか、如何にしてそれ等が金融資本主義の諸關連の組織の中に入り込んだか、如何にして、自由競爭に代つてトラスト化された資本の獨占が出現したか如何にして資本主義的世界が新なる帝國主義的段階へその歩みを進めたか、如何にしてブルジョアジイの種々なるフラクションが結合したか、如何にして勞働者歩兵が帝國主義に抗して布陣するか、如何にして帝國主義は自らの時代において勞働者階級の幹部を再び捉まへるか、如何にして彼は民族的ブルジョアジイを買收するか、如何にして勞働者階級の力と帝國主義の力との平衡（最後は帝國主義の沒落に導く所の）が尖銳となるか、等を示した——が續いてゐる

その次には資本主義の一般的危機に關する、及び、世界××（第一段階に關する章が續く。

綱領は、そこで、現實に發展してゐる國際××の問題を示し、そして、最後如何に××的鬪爭の全系列が——他の場所で××的鬪爭を燃え上らすために一の場所で退却したことの外には、たへて中斷したことのない——燃え上つたかを、明白に示してゐる。その次に資本主義の一般的恐慌の形態交代の過程——かゝる過程における社會的力の鬪爭、社會民主々義とフアシズムとの恥ずべき役割、資本主義安定の分析、その矛盾の生長等を除序的に描いてゐる、之と共に現代的發展の基本線を與へ、且つその最後の目的において世界××主義へ導く所の國際プロレタリア××の過程を輪廓づけてゐる、次の文では、國際××主義社會、此の社會の前階段、社會主義的生產様式の最初の歴史的段階とは何を示すかを、一般的狀態において說明してゐる。

綱領は『結局目的』の表示の後に、移行期の問題を示した（第四章）そこでは同時に客觀的發展經過が分析され、且つ、此の土臺に立つてプロレタリアートの任務とプロレタリア××の任務とが確固として提示された、そこで、綱領は、權力把握の、プロレタリア××のソビエット形態の、勞働者の××の、プロレタリア××の經濟政策の基礎の、此の時期における階級の、大衆組織の役割の、文化××の、種々なる國家典型の、その相異性及びその特質、移行期の第一に植民地における移行期の、諸問題等を取扱つた、吾々は、そこで、種々なる國家におけるプロレタリア××のための鬪爭の各特質ある段階の一般的關係を示し、ソビエットユニオン、××的過程におけるその役割、國際勞働者運動に對するその本務、及びソビエットユニオンとの關係における國際勞働者階級の本務、と云ふことに特別の一章を捧げざるを得なかつた、最後の章において、コミンテルンの戰略的及び戰術的主要任務が具體的に示された、それは、勞働者階級の種々なる流れの、及び、コムニズムに敵對する勞働大衆一般の下における種々なる流れの、分析をもつて初められた。同時に、そこでは、此の流れの種々なる社會的實踐及びその基本的批評が與へられた、即ち、改良主義

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

のイデオロギイはその亞種をもつて組織的に鞏固にされた。採過仙主義、ガンヂ主義、ハルヴエイズムの特徴附けが行はれた。それからプロレタリア世界××のための鬪爭における戰略的、及び戰術的任務が示された『共産黨宣言』の燃ゆるが如き言葉をもつて、コミンテルンの綱領は語つてゐる。此の綱領の設定は、疑ひもなく、××主義運動の歴史における極めて力に充ちた標石を意味する。此のことは、コミンテルンの生涯における非常に意義ある出來事であり綱領の作成は、吾々の運動の總ての勝利のための第六回會議の眞の相貌を規定した。綱領は、運動自體のために、巨大な、若干の、そして指導的な役割を果したのである。

第三章 國際狀態とコミンテルンの任務

A 資本主義安定化の問題

綱領草案は、さきに、資本主義の一般的恐慌の現段階の評價における一定の紹介を與へた。かゝる段階の詳細なる分析は、近い時期のためのコミンテルン戰術的線の規定に取つての出發點であらねばならぬ。

全問題の核心點は、資本主義の一般的恐慌の特殊的形態即ち、所謂資本主義安定化と結びついてゐる所のその形態の評價の中にある。吾々は、過ぐるコミンテルン第五回會議において、資本主義安定化の問題が未だ解決されてゐないことを、記憶してゐなければならぬ。

だが、既に、コミンテルン第三回會議に於いて、同志レーニンは、世界狀態が可なり有力な變態を示してゐること、資本主義が次第に直接の鋭くなつた革命的な戰後恐慌から脫出し初めてゐること――此のことは今や完全に明かである――を一切の決定性において看取した。正に夫との連關において同志レーニンは、當時所謂『攻勢理論』により。決定的鬪爭を宣言し正にその故に統一戰線戰略の適用を躊躇し、且つ、部分要求スローガン等々の必然性を斷乎として提示したのである。レーニンは、總世界狀態の中に一の有力なる變態が起りつゝあること、恐慌の新き形態が資本主義のための可能性によつて解決――一定の時期の間なほ前進をつゞける所の――しつゝあることをその天才的な敏感さをもつて追跡した。夫ばかりではない。既にコミンテルンの第二回會議において、レーニンは、資本主義は死の巷をさまよひ、決して、それから脫出出來ないと主張するものと對立して次の如く云つた、資本主義は絶對に絶望の狀態に在るのではない、ブルジョアジイは一時的な出口を見出しえてゐる、唯鬪爭のみが此の問題を決定しうるのである、と。

第五回會議以來、安定化の問題は口を切られ初め、その後は、世界狀態の總評價の中心問題として最早コミンテルンの文書から最早消え去ることはなかつた。第六回會議において、歴史的發展の總勘定の結果が計算され、そして、その發展の、及びそれと共に、その矛盾の發展の、現段階に適應する所の評價が與へられた、資本主義的世界經濟が戰前水準を越え、重要なる資本主義國家の一系列における資本主義の生産力の躍進が一の事實となり、アメリカ又は獨逸が有力なる技術的躍進を示し――會議の決議の中に示されてゐるやうに――『技術的革命の性質』を培つてゐる、と云ふことを吾々が充分明かに認識するならば、資本主義の安定化が一時的、暫定的なものとして示されてゐる今日、前述の評價は如何なる意味を持つか?。

明白なる技術的進歩が示され、生産力の生長が爭ふべからざるものであり、それに從つて生産のトラスト化の、巨大なる資本主義的獨占一般の、生長の過程が明白に表現され、國家資本主義への傾向が確固として示されてゐること、之等のことは一般に、資本主義の戰後危機を全く簡單に清算したものであることを意味するものではないだらうか?社會民主々義はかくの如くに問題を決定してゐる。

之に對する正しき答へは何か?それは次に在る、資本主義の狀況なる發展は戰後恐慌を通じて作られ此の恐慌とその狀況なる經過を表現した形態の中に、資本主義的安定化の一切の對立を異常に尖銳化した形態の中に、押し進められたと云ふことがそれだ。資本主義の社會民主々義的辯護者も資本家と共に不愉快に考へてゐる所のソビエット・ユニオン存在の事實だけでも、資本主義の一般的な××的恐慌の一表現である、資本主義は戰爭までは、支配的關係の一般的形態であつたが、今や、世界經濟は二つの原則上相互に敵對し合ふ『セクトーレン』に分裂してしまつた。從來、植民地は歴史の客體に過ぎなかつたのに、今ではその主體となつた。從來、歐洲とアジヤとの間には一定の均衡が支配してゐたのに、今では資本主義的セクトール自體の内部において新なる姿の矛盾を呼び出した。從來、生産力と大衆の購買力との抗爭は發展のたへざる誘因であつたのに、今では此の對立は次の二方面から非常に鋭くなつてゐる即ち、戰後時代の窮乏化は技術的躍進によつて特に強く高まり、そして、生産力の生長と自らの消費土臺との抗爭は特に鋭くなつた。資本主義の一切の對立は、かゝる基礎の上で強烈に生長し、市場の追求は戰爭の前を異常なる尺度において非常に困難化し、歐亞間の均衡の破壊は世界地位においてたへず系統的に醸成されてゐる米英抗爭の基礎となり、技術的進歩自身及び所謂資本主義的合理化は巨大な範圍の慢性的失業を作り出し

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

階級關係は尖鋭化し、植民地の抗爭はより廣汎に發展し、且つ、資本主義的安定化の矛盾が生長した。

資本主義の一般的恐慌の現段階のかゝる評價は、此恐慌發展の第三期に關するテーゼの中で定義されてゐる。コミンテルンの決議は之に關して云ふ。

『最後は、第三期――資本主義經濟と殆んど同時にソビエット社會主義共和國聯邦の經濟も亦戰前水準を超過した（所謂再組織期の開始、新技術の基礎に立てる社會主義的經濟形態の廣汎なる生長）所の――だ。資本主義世界に取つて技術の急速なる發展の、カルテル、トラスト、國家資本主義への傾向の上向的發展の時期である。と同時に此の時期は、世界經濟の矛盾の強力なる發展――資本主義の一般的恐慌の總從來の經過（狹くなつた市場、ソビエット・ユニオン、植民地運動、帝國主義の内部矛盾の增大）によつて規定された所の形態において行はるゝ――の時期である。生産力の增大と市場の減少化との矛盾がそこで全く特に鋭くなつた所の此の第三期は、不可避的に帝國主義國家間の戰爭、ソビエット・ユニオンに對する戰爭、帝國主義に對する民族的解放戰、帝國主義の干涉、巨大なる階級鬪爭の新なる段階へ導かれるであらう。

あらゆる國際的對立が（資本主義國家とソビエット・ユニオンとの對立、支那分割の開始としての及び帝國主義者相互の鬪爭の開始としての、北支那の軍事的抗爭、等々）尖鋭化され、資本主義の内的矛盾が尖鋭となつてゐる（勞働者大衆の左翼發展の過程、階級鬪爭の尖鋭化、印度エヂプト、シリア等の植民地における運動の展開）かゝる第三期は、不可避的に資本主義安定化の廣汎なる運動への及び資本主義の一般的恐慌の尖鋭化への資本主義的安定の矛盾の廣汎なる發展を導くであらう』

B 狀態の決定的環たる戰爭問題

以上の分析から、戰爭危機の問題が現狀の決定的環であることが結論される。此のことは、戰爭が近々數ケ月の中に起るとか、又は數ケ年の中に勃發するとか云ふことを意味するものでは決してないが、全國際的發展は、此のやうな方向に進んでゐるのである。英―米の世界抗爭とその勝敗、支那及び太平洋における根據地のための日米の鬪爭、英伊の對立、資本主義的大國家側からのソビエット・ユニオンの絶えざる脅威――ルーマニヤ及びポーランドの軍隊を鬪爭に送り込む準備をしてゐる所の――對支干涉戰爭、繼續的な軍備、秘密同盟等に、テロル・ドラマ的な反プロレタリア法、漸次強化してゆく勞働者組織への彈壓、結局戰爭の爲めの準備政策に過ぎない所の對外政策への對内政策の適用――之等すべては、狀態を決定的に描寫する所のものである。かゝる狀態の下において、戰爭危險の過少評價とそれに適應する戰爭に對する不充分な鬪爭とは、正しくプロレタリアート並にその××主義的前衞に取つての主要危險である。

此のことは、何れの時期においても資本主義社會の發展が戰爭のための現實的準備を欺瞞的に陰蔽する事情にあればある程益々重要であり、且つ、同時に、戰爭が多様なる手段と多様なる愚蒙化的手段とをもつて――恰も今日の場合における如く――陰蔽されればされる程、益々重要である。

今日、かゝる平和主義的假面を暴露し、平和主義の[illegible]と毒ガスとを追ひちらしうる力、組織は、コムニストインタアナショナル以外にはない。そのことは次のことを一見しただけで充分である。大帝國主義的強盜たるアメリカ帝國主義は、平和の使徒として立ち、戰爭をボイコットせよと云ふ呼號の下に戰つてゐるが、すべて理性的な人間は、合衆國を狩り立てつゝある巨大なる戰爭準備、アメリカ資本がメキシコ及びニカラガを劃滅しつゝあると云ふ事實、支那へその艦隊を廻航してゐる事實と他方で戰爭をボイコットせんと斷言してゐる事實とがどうして一致したるかと云ふ問題を出してゐる。

その他帝國主義的強盜たる××は支那の二省を自らに支配し、進んで完全なる軍事的準備を行ひ、戰爭を禁止せよと云ふ見地からむ數の紙切れに署名してゐるにも拘はらず、血みどろな戰爭を指導してゐる。之等すべては、事態の眞の經過を陰蔽すべき一のマスクに過ぎない。勿論、此のマスクは社會民主々義から支持されてゐるのである。かゝる狀態の下において、此のマスクを徹底的に引きちぎり勞働者階級に事態の本質を暴露しその眞實の性質を認識せしめ、平和的饒舌の全構造を吾々の嚴肅なる警告によつて打破し、全勞働者階級を戰爭危機に對する鬪爭の組織的準備に狩り立て、且つ此の準備を眞の力をもつて日々準備すること、之が吾々に要求せられてゐる所のものである。それ故に、コミンテルンの支部の日常政策の問題は、戰爭に對する鬪爭の問題に從屬してゐる。帝國主義も亦、そのあらゆる歩武をより廣汎に、戰爭展望の嚴密なる算定の中に進めるであらう。イギリスブルジョアジイが古い時代を呼び起し、そして勞働組合の政府的權利を奪はうとするのは、それによつて此のブルジョアジイが戰爭に近づかうと欲してゐるのである。英、獨、米及びすべての國のブルジョアジイがその社會民主々義的指導者によつて「産業平和」を激發せしめ、そして勞働組合の指導部を資本主義的トラスト及び資本主義的國家の機關に變化せしめやうとしてゐるのは、之を戰鬪準備に奉仕せしめんがためである。ブルジョアジイが今日コムニストをテロル手段をもつて追撃してゐるのは、彼等が戰爭を豫見してゐるからである。ブルジョアジイの不斷演習政策は

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

異常に錯綜してゐる。國際ブルジョアジイはすべての槓杆を動かしてゐる。彼等は、欺瞞と暴行、テロルとキリスト教的教説、犬儒學派的買收と狂暴的な平和的お伽話、殘酷なる準備と神聖なる假面、すべて之等のために、武器の非常に內容豐富な分類について苦心してゐる。彼等は、一面では戰爭同盟を結び、他面では國際聯盟を利用し、ケロッグ案をもつて立ち現はれてゐる。彼等は、テロルを適用し乍ら、同時に産業平和を要求し且つ、勞働組合の改良主義的支持を小さな贈り物によつてかち取つてゐる。彼等は、勞働者國が自分の國家を踏潰することを欲してゐる。彼等は、勞働者階級の幹部を――プロレタリア運動の中に分裂を作らんがために――手なづけ、且つ社會民主々義的官僚に對し、勞働者の××層を勞働組合から追ひ出せ、と云ふ指令を與へてゐる。かくして、吾々は、長い線を作つて、社民民主々義の應援を伴ふ所の脅迫的な戰爭衝突への準備の理念を中心的理念としやうとする方策の錯綜せる組織を眼前に見受けるのである。

C 現在の社會民主々義の精神

客觀的狀勢における變化は（安定化の特殊的形態、軍備、國家資本主義的傾向等々に）社會民主々義の問題を新に表面に押出した、社會民主々義の役割は、今や、一九一四年におけるそれよりもなほそれとは比較にならぬ程恥辱的である、社會民主々義の幹部は、今日、既に帝國主義の鎖に繫がれた犬である。彼等は、資本の利害のために勞働者組織を分裂せしめ、コムニスト及び單純な××的勞働者を勞働組合から追放し、企業家と共に平和のための教説に奔走し企業家と會商を共にし、自然に組織的な様式において、イデオロギイ的に、政治的に、ソビエット、ユニオンと闘爭してゐる。勞働組合幹部、社會民主黨幹部は、露骨、直接にトラスト幹部と、資本主義國家の機關となり了り、且つ、公然と露骨なる支持の、積極的協働の、及び、帝國主義國家の無條件的防衞の、見地に立つてゐる。吾々は、社會主義者アルベール・トーマ、この典型的なウルトラ社會民主主義者の『光榮にみてる』姿についてだけ考へて見やう。社會主義者と名のる此の男は、ムッソリーニの長靴を舐めるために、又、ファシズムの『自由』を謳歌するためにイタリイへ旅行した。彼は、常に國際聯盟、即ち國際帝國主義、強盜組織に雇はれ、これを『勞働部內』として管理してゐる。諸新聞は既に、彼がロシヤの高等宗教會議に熱心な愛の使節を送つたこと――けだし『全世界の善人』の等しい考へは社會主義者をチエスイット教徒と一緒にしてゐるから――をもつて讃美してゐる。今日の社會民主々義的指導者の典型はかくの如くである。誠に美はしい光景だ！ロシヤにおけるその宣教を既に了へ、その國際帝國主義戰線を更に繼續すべくロシヤ勞働者を説服せんと企てたトーマはケレンスキイに接近し、デモクラシイの名の下にロシヤ勞働者を爭鬪へ追ひやつたトーマは、更に進んで恰もその時代にたゞに『臨時政府』とのみならず、ツアーリズムの政府ともブロックを形成した所のかのヴアンダアベルトと正に同様に砲身及ひの供給者の役割を果したトーマは第二インタアナショナルの特徴ある姿であり、同時にその堅つたカリカチアである。

社會民主々義のかゝる地位は（資本主義的組織とその交互、勞働組合におけるその分裂政策、帝國主義支持の政策等に）戰術的轉向を――既に久しい以前コミンテルンの執行委員會々議が英、佛共産黨のために規定した所の――社會民主々義の尖鋭なる戰鬪への轉向を、條件づけるものである、かゝる轉向は、前記兩黨に取つては、その總發展への偉大なる歷史的意義をもつ一部の一歩進出を意味する。勞働者運動分裂への社會民主黨の傾向が一般的現象となつたが故に、かゝる戰術的轉向が淨化され、進展されなければならぬこと此のことは第六回會議において充分に明かにされた。吾々は社會民主々義に對する吾々の鬪爭を、吾々の×動においても、宣傳においても、全日常鬪爭及びストライキ鬪爭においても尖鋭化しなければならぬ。だが、社會民主々義に對する吾々の鬪爭のかゝる尖鋭化から、吾々が社會民主々義的勞働者のための鬪爭を放棄しなければならぬ、と云ふ結論は決して出てこない。その反對に、大衆、第一に社會民主々義に追從してゐる大衆の獲得の問題は――不幸乍ら此の大衆はまだ多數に上つてゐる――今や充分の鋭さにおいて吾々の前に存在する。××黨が大なる成功を得、三百五十萬の投票を集めた所の獨逸における最近の選擧においては社會民主々義への投票は九百萬であつた。社會民主々義者は此の投票の一部を小ブルジョアジイの犠牲によつて獲たのであるがそれにも拘はらず、社會民主々義者のためにはなほ幾百萬の勞働者が投票してゐる。此のことは、吾人が考へなければならぬ一事實である。吾人が、かゝる社會民主々義的勞働者のために闘爭することを中止してはならぬ。

中止所か、吾々が勞働者階級の階級統一の旗をより高く掲げる爲に勞働者階級のすべての力を社會民主々義幹部に對して精力的に動員するために、吾々があらゆる部分の日常の問題、あらゆるストライキ、企業家とのあらゆる抗爭において社會民主々義的勞働者のために大なる熱烈さをもつて闘爭するために、吾々は社會民主々義の恥ずべき、裏切的な役割の問題を鋭く暴露しなければならぬ。

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

D 大衆のための闘爭とプロレタリア系列の統一

大衆のための闘爭の問題は、大衆獲得の問題であり、且つ、吾々の戰術的な主要問題である。吾々の立場は、だが今日、プロレタリアートの最も遅れた層との連繫においてすら、好都合なものとなりつゝある。コムニストは戰爭の當初、社會民主々義の裏切りを分裂任務を前にして示した。吾々は社會民主々義者と共に闘爭しなければならなかつた。分裂の旗は吾々の認識記號であつたし、八月四日には社會民主々義的英雄も亦此の分裂のための防塞を擔當した。今や如何なる××黨も、社會民主々義者との協働について考へ込む夢に落つてゐるものはない。そしてその後、××黨は正しく發展し、それが一の大衆力になり、それが資本に對する眞の闘爭を指導し、社會民主々義者も勞働組合を分裂し、モンド、クルップ、モルガン●エンド●コムパニイと結合してゐるが故に、事態は全然變化してしまつた。事實は、新なる一歷史的事情」において新なる光彩の中に現はれた。今や統一の組織のみが各國における勞働者階級間の統一の理念の擁護者であり、唯一の組織のみが、勞働者階級と植民地國民との統一の理念の擁護者である。そして、それこそコミンテルンである。或者は、コムニストが生長するが故に彼を勞働組合から追放した。だが、吾々は統一のために闘爭し、統一を實現し、「民族的」尺度及び國際的尺度において勞働組合に組織された勞働者階級の統一の旗を展開しつゝある。だが、吾々に對する闘爭は漸次に強烈となりつゝある、吾々には、統一を實際において實現するであらう、吾々のみがこれをなしうるのである。第二インタアナショナル及びアムステルダムにあつては民族帝國主義的爭闘と改良主義的位置顚倒との一形線を正直な勞働者に說明してゐるのである。吾々は、植民地國民との統一の理念の擁護者であるが、改良主義者は、此の植民地國民を僕婢につきおとし、且つ、之等國民の全體を國際聯盟を通じて奴隷主人公に渡してしまふのである。

かゝる辯證法的動道が歷史を通過してゐる、統一の旗は吾々に取つて演習でなく、遊戲でなく「アトラクジョン」でなく、それと似通つたものではない！吾々は、國民に、資本家との統一に抗する唯一の組織であり、勞働者系列の統一のために、勞働組合に組織されたプロレタリアートの現實的統一の爲に、闘爭する唯一の組織である資本主義的安定化の矛盾、勞働者階級への衝擊、上向し行く無情的な、强盜的搾取、國家の一系列における恐るべき失業、あらゆるその恐るべき、破壞的な結果をもつ所の恐怖的戰爭時代の豫感——之等は、勞働者階級の大衆的な「ラヂカール化」のための、ソビエット、ユニオンへの彼等の同情の生長のための、彼等の防衛準備のための、統一への彼等の欲求のための基礎を作り出すものである。下からの統一の、資本家に對する統一の、かゝる旗こそは、コミンテルンが瞬時も忘れることの許されない所のものである。日常闘爭指導、靑年、勞働婦人、坑夫及び勞働組合での仕事、ストライキの小鬪の下における强力なる仕事、更に大衆への强力なる傾向——之等は總て、今日の狀態からの結論である。

E 右翼歪曲に對する闘爭は黨內的主要線である

吾々が安定化の諸條件の中に吾々の闘爭を指導する所の地位は非常に複雜してゐる。吾黨は少からず困難なる任務の前に在る。それは、吾々が歩んでゐる所の黨內生活が困難なる途にブツかつてゐること、吾黨の政策の中には正しきレーニン主義的からの歪曲が與へられてゐることからして、理解されるであらう。吾々は、黨の多數に取つて特徵的である所の事實の全系列を一般化し、コミンテルンにおける集中的危險を示し、もつてコミンテルンにおける集中的に重要な、そして決定的な危險が今日においては右翼危險であることを斷乎として記述しなければならぬ。

トロツキイ主義的反對派が破壞されて後、此の反對派の一部が社會民主々義者へ移行——獨逸におけるが如く——して後、今や吾々の系列內部の主要危險は正に右翼危險である。吾黨は、勞働組合においては日々社會民主々義黨と闘爭したが——、或方面ではそれと共に協働した。すべて之等のことが社會民主々義の大なる强化を導いたこと、社會民主々義的影響を吾々の系列に齎したことは明かだ。又は、コミンテルンの中に、まだ鐵火の洗禮を受けない黨の一系列がある事を忘れてはならぬ吾々は、白色テロルの狂暴なる支配の下に活動した所の文字通り戰場から會議へと走りまはつた黨もあるが、未だ斷固たる闘爭を經ない黨の一系列も亦存在する。この一例はチエツコスロバキア黨——社會民主々義的黨から出發し、未だ直接的大衆闘爭に立たず、未だ正しくブルジョア獨特の彈壓の下に出會はない所の——である。此の黨は未だ正しい試練を經てゐないそして黨自身が遂行する所の此の試驗は所謂「赤色デー」であつてそれは大衆を動員し、彼等を市街に引き出し、極度の困難な闘爭を展開することを意味する。吾々はかつてチエツコスロバキヤ黨に對して決議の一系列を承認したが、今やそれは、黨及び地方組織の幹部が、未だその社會民主々義的過去から解放されてゐないことにつ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

いての明白なる記號である。

すべての黨の中に、右翼的傾向が種々なる樣式において與へられてゐる。

フランスでは黨が展開する戰術的傾向に對する反對の中に、遺物的な議會主義的幻想の中に、社會主義の『左翼』の裏切的役割の過少評價の中に、ブルジョア的合法性の下への慢性的追從の中に、右翼危險が現はれてゐる。

イギリスでは、第一番に、勞働黨に對する新戰術の適用への反抗の中に、勞働黨首領の假面暴露のための戰ひの不充分性の中に現はれてゐる。

ドイツでは、赤色勞働組合インタアナショナル第四回會議の決議に對する反對の中に、勞働組合原則の名による黨原則の破壞の中に、『生産統制』の命題の中に、並に社會民主々義『左翼』の誤れる評價の中に現はれつゝある。

アメリカの××黨では第一番に社會主義者に對する誤れる政策の中に存在する。かゝる例證は既に數多くある。會議は、一般的テーゼの該部分の中で、コムニストインタアナショナルの一切の成員に對して次のやうな義務を課した即ち、徹底的に右翼危險を戰ひ取り、且つ、同時に××黨内部の此の危險を過少評價するが如き流れと傾向とを斷乎として戰ひ取ることを。個々の黨においての中心的危險は『左翼』である。例へば、吾支那×××——從來日和見主義的誤謬を苦しんだ所の——には最近、全黨を腐敗せしめる『左翼』歪曲の危險がある。此の危險は、××的潮流が退潮し、吾黨の有力なる部隊が物理的に破壞され、新なる××的潮流は未だ初まらず、若干の黨の中では云はゞ極めて輕卒に反亂が組織され——最初から敗北が豫定されてゐるやうな反亂が——てゐる、と云ふことの中に在る。

此のことは、最良のコムニストの系統のより激烈な破壞である。吾々は、全黨の指導を斷乎として大衆のための鬪爭に向けなければならぬ。だが、私は繰返す、吾々にして全コムニストインタアナショナルに從ふの故は、第六回會議が充分に正しく右翼危險を中心的危險として正確に强調したためである、と。

黨内的關係の領野では、吾々はフラクション鬪爭の危險と黨の結束の必要とを特に强調しなければならぬ。最近、國家の系列ではフラクション鬪爭が一切の限界を飛びこえてゐる、即ち、正しき原則的な意見の差異なくしてフラクション鬪爭を約七年間繼續し、且つそれによつて黨を全く破壞してしまつた所のユーゴースラビヤ黨の中に、それは現はれてゐる。吾々は、此の黨をして有益な實際的仕事の途を踏ましめ、且つ、新幹部に對し、既に今日では狀態の改善に導いてゐる所の撲滅的仕事に參加するの可能性を與へた。吾々は責任ある地位にあるポーランド黨の中にも亦、かやうな狀態を見出す。そこでも、政治的な意見の差異は全く議論をなしてゐないのに激しいフラクション鬪爭が、重要なる組織たるワルソー組織の分裂を齎した。吾々は、すべてのかゝる問題に特殊の決議をなし、もつて之が消滅のために戰はねばならぬ。吾々は、結束の問題を一切の黨について示さなければならぬ。

吾々は、コムニストの理論的水準の高揚の任務、吾黨の重要なる指導的勢力の强き結合の任務、及びコミンテルンの士氣に立脚せる一切の有力な同志の吸收の任務を、諸黨に示さなければならぬ。私はコミンテルンの會議で、レーニンの注意深い次の言葉を述べた『若しも諸君が柔順な馬鹿者であり、何物をも持たなかつたなら、少くとも柔順であつたなら、たとへ馬鹿の群でなくとも、諸君は黨を死滅させてしまふだらう』吾々は、此の規則を常に記憶し、適應的に行動しなければならぬ。それは、だが、歪曲を、或何等か異つたものに、且つ、云はんや新式な忍從なぞに、盲從することではない。吾々は、歪曲に對しては鬪爭し、且つ、克服しなければならぬ。此のことを、あらゆるボルシエビキに取つてのABCであることは明白であらう。此のレーニンの言葉は、吾黨におけるが如きかゝる、『經濟』には、極めて不充分な指導的幹部には、强く押捺されてゐなければならぬ。

理論的水準の高揚は、殆んどすべての黨において除外例なく重要なる任務である、吾々は、綱領の討論が、各××黨の生長を認めたことを云はなければならぬかゝる狀態からなされた所の、狀態の困難性、及び任務の複雑性は上向的尺度において、より高い實際的指導を、即ち、實踐的勞働經驗を政府的經驗と理論的確實性とに結合する一部の指導を、要求する社會民主々義に對する鬪爭の尖鋭化、大衆のための鋭い鬪爭、下部からの共同戰線の戰術、勞働組合内部の、及びプロレタリアートの一切の大衆組織内部の强力なる仕事、勞働者系列の統一のためのプロパガンダ、黨内右翼危險に對する鬪爭、黨の確立と結束、全鬪爭の中央にある戰爭危險の問題をもつてする所の資本の攻勢に對する活潑なる反駁之等は重要資本主義國における吾人の積極的任務である。此の場合、命題の一切の部分スローガンがプロレタリア××に從屬さるべきは自明のことであらう。

第四章

戰爭に對する鬪爭の問題と植民地問題

戰爭危險の問題については、コミンテルンの執行委員會第八部會の決議に比し、原則上新なるものを附け加へる必要はない、詳細な決議が、吾々の從來の基礎の上で作られてある、此の決定の一部分

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

は公表されてゐない、それは、吾々の階級敵の知るのを許さない爲めである。戰爭に對する吾々の仕事は、非合法性への我々の黨組織の一部分の移行と、戰爭の非××的形態と方法との强化と、結びつく。

第六回會議の活動が主要な力を集はれた植民地問題は、一定程度に於て既に經濟問題分析の上に基いてゐる。會議は、植民地問題への原則的見方を綱領の中に與へてゐる、會議は、此の問題を、だが特別の日程點として獨自的に取扱ひ、且つ、そのときの有力なる部分を犧牲にした。同志レーニンが率いた第二回會議の決定は第六回會議の決定の基礎をなすものであつたことは明白であらう。第二回會議以來だが多くの變化が起つてゐる。吾々は、たゞに支那においてのみならず、植民地本國の一系列において、巨大な經驗を集めた支那革命の爆發的出來事は非常に複雜な戰術的問題の一系列を提出し、且つ解決した。吾々の經驗及び、しかも吾々の大衆經驗は驚くべく豐富となつた。インドネシヤにおける反亂、シリア、エヂプト及びモロッコの戰爭、南米の獨立戰爭の經驗及び最後に、印度における運動――すべて之等は、吾々に對して『植民地問題』の非常にうまく作られた、非常に具體的なスローガンのための材料を與へた。同問題について會議で行はれた討論は、次の如き二方向に分れた、第一は、植民地に對する帝國主義の役割についての論爭、第二は、國民革命的な××における、第一に印度におけるブルジョアジイの役割の評價であつた。第一の問題が示した樣式は既に、此の問題から一定の部門を提立する。それは吾々が、一面では經濟的に獨立してゐるが、南米、英領カナダ、他面では印度及び支那を帝國主義の魔爪にかゝらしめないために行つたのである。發展の經過、母國資本の役割、國際狀態（カナダ及び印度）――之等すべての要因は、より廣汎に特筆された。會議は、その注意を、支那の經驗の判斷の上に、及び、第一に、印度問題の上に集中した。支那問題は、既に、充分に明かな所であらう、今や吾々には、偉大なる印度の『試驗』の前に立つてゐる。印度は、巨大な人口をもつ所の一大國家である。それは、今日の所、驚くべく深刻な窮迫の狀態に陷つてゐる會議は、第一の問題に關聯して、支那における、及び第一に印度における、帝國主義の異常に矛盾に滿ちた大役割を次の如くに示した即ち、帝國主義は、一定程度においては之等植民地における資本主義の發展を要求してゐる、が、帝國主義は、それと共に、此の發展をば、それが殖民國の困窮化に導き、困窮者大衆を極僅少な地域に押し込め、產業的國內市場を狹め、產業の發展を妨害し、且つ、特に機械製作、金屬――金屬的工業等々の如き生產部內の發展を拔術的方策をもつてにぶらすことの上に、確保してゐるのだ。かくして、帝國主義の問題は解決した。會議は、そこで、民族的ブルジアジイの問題についてこう示してゐる、印度のやうな國に取つては屢々ブルジョアジイとの一時的協働をやることは可能であるが、然し乍ら、それだからと云つて、ブルジョアジイと共同して黨を作つたり、又は、ブルジョアジイとの永久的一致をやつたりすることは斷じて許されぬ、と。既に今日、ブルジョアジイに對し、その不徹底性、その不安定性、帝國主義との協働性を暴露することが必要だ既に今日、勞働者は、反革命的陣營へのブルジョアジイの投入の不可避性を指摘しなければならない主要な任務は、プロレタリアートの獨立的黨の形成――大衆活動を指導し、勞働組合を作り、農民同盟を組織する所の――、農業革命の廣汎なプロパガンダ、帝國主義の放逐等々である。

印度ブルジョアジイは反革命的な支那ブルジョアジイと同日の下に論ずることが出來ない上に、他面、ブルジョアジイが支那で一年間革命的役割を果した如き狀態は此の印度では全く可能ではない。けだし、印度においては、かゝる展望は、ブルジョアジイを反革命の陣營へ追ひやる所の大衆運動の躍進が急速にかゝる問題を異常の鋭さをもつて放逐してしまつてゐるからである。

會議は、特に植民地問題に對する第二インタアナショナルの地位について論じ、且つ、帝國主義政府、並に國際聯盟の卑むべき代理人としてのその役割のマルクス主義的評價を行つた、此の第二インタアナショナルこそは、植民地に對する自らの態度の「標準」を、かの國際聯盟の××中から引出してゐるのである。

……◇……

編輯後記

先月號は都合により休刊したが今月號は見らるゝ通りの諸論文をもつて、日本大衆黨の分裂批判と全青同盟の解消過程、全產の反階級性等に就いての戰鬪的展開をなした事を喜ぶものである。

ブハーリンのコミンテルン會議の總括的批判は本誌の頭分としていさゝか長きに過ぎた憾みをもつけれども、編輯上の都合によつて最後の一章を殘して全部掲載した最後の一章は來月號に續載する。

全土戰報を二回ながら休載したのは甚だ遺憾とするところではあるが、從來の寄せ集め式、報告的月並的なものよりより進出的展開をするために、一時控へたに過ぎない、同志伊倉繁郎君は全戰の意義とその編輯方針について寄稿して來たつたが、締切後のため掲載出來なかつた。

本誌に就いての批判をどしどし送つてもらひたい。

尚進め研究會は可成り盛會に組織的に行はれてゐるから申込んでほしい。今後、誌代が切れたら個人讀者たると、支局たるとを問はず發送を中止する。

……◇……

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

金銀
白金
徳力本店
東京市神田區松田町

衛生上便所には必ず
イマヅ蠅取粉
を撒き、蠅、ウジを全滅し
臭氣を止められよ！

便所にイマヅ蠅取粉をマケば臭氣を完全に止め蠅、ウジ等を全滅し傳染病の豫防となるからこれからは衛生上是非實行されるがよい。
小罐三十錢、半磅一圓二十錢、一磅二圓で到るところの商店にて販賣してゐる。もし品切れの時は大、市京町堀通二今津化學研究所（振替大阪六八〇九八番）へ金錢申込めはよい。

婦人良薬
喜谷實母散
産前、産後、血の道、引風、冷込等に特効有
▲全國到る處に販賣す
本舗
東京京橋區中橋大鋸町
喜谷市郎右衛門
電話京橋 五五番 五六番

大阪一の名物
大黒
福おこし
粟おこし

時計
東京 玉屋 銀座
電話京橋長三〇五・三〇六・三〇七・一八〇一・一八〇二

◇松坂屋の安い理由◇
1. 生産者から直接仕入をなすこと
2. 多く現金で大量取引をなすこと
3. 質素堅實で營業經費の少きこと
松坂屋
東京（上野銀座）◇名古屋◇大阪

安住かとり線香
大阪大仁
株式會社
本舗 安住六藥房

森永
ミルクキヤラメル

エビスビール

お買物は三越へ

◇品質がよく、新流行品揃ひにて、價もまた抵廉です。

◇三越呉服店はデパートメント、ストーアですから、日常生活に御必要な御品は大抵取揃へてあります。

◇何と申しましても、良い品は東京に限ります。東京でも三越の品ならばお安心してお買物が出來ます。

地方からの御註文はお手紙にて通信販賣部へ御一報下さいますれば迅速にお送り致します

東京 三越 日本橋

精工舍腕時計

SEIKO

測量器
寫眞器
銀器
各種時計
ダイヤ
装身具
金銀盃

東京銀座二丁目
服部時計店
大阪博勞町
心齋橋筋角
大阪支店

海へ、山へ！

盛夏の御用品は大丸で御願ひ致します、流行品の數々も豐富に取揃へてあります。

大丸
大阪心齋橋

夜間營業
月曜休業

大正十二年一月三十日第三種郵便物認可 昭和四年六月二十八日印刷納本 昭和四年七月一日發行 第七年第六號 毎月一回一日發行 定價一部十錢（郵稅五厘） 發行所東京市外大井町阪下二六八〇 …め社本部